

科目名	人間科学概論		科目コード	W22015	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-01H						
区分	社会科学系系列科目	必修	担当者名	藤岡 真之・西沢 勝則・斉藤 利男			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>社会学、心理学、歴史学という3つの分野の知見を学ぶことで、人間、社会、文明、およびそれらの結びつきについての理解を深めます。1～5回は藤岡（社会学）、6～10回は西沢（心理学）、11～15回は斉藤（歴史学）が担当します。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>DP2、CP2に関連している</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人々のつながり・意識・行動・コミュニケーションが、大きな社会変化と結びついていることを理解する。（藤岡） ・人間行動に関する心理学の基本的な知見について、その概要を理解する。（西沢） ・自身の日常生活における経験等と関連付けて、心理学的知見の要点を説明できる。（西沢） ・戦争をめぐる人間の歴史を知り、戦争を空想でなく、身近な問題としてとらえることができるようになる。（斉藤） 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	産業化と社会的つながり			デュルケーム『自殺論』の議論を参照して、産業化の過程における社会的つながりの変化が人々にもたらしたものを考える						
第2回	リスク社会化と社会的つながり			個人の自由度を高める一方で、不安を高めることにもなる、個人化という現象について考える。						
第3回	インターネット化とコミュニケーション			エコーチェンバー、フィルターバブルという現象を通して、インターネット上のコミュニケーションの特徴を考える。						
第4回	戦後社会における社会意識の変化			高度経済成長期、ポスト高度経済成長期における、人々の意識の変化を考える。						
第5回	消費社会化と社会意識			経済と幸福の関係、脱物質主義化について考える。						
第6回	感覚・知覚の世界			感じるしくみ、恒常性、錯視、色覚						
第7回	注意と記憶			選択的注意、注意の障害、記憶障害、記憶の変容						
第8回	思考のくせ			問題解決、ヒューリスティックス、認知的不協和						
第9回	言語とコミュニケーション			言語の習得、コミュニケーションの機能、ディスレクシア						
第10回	感情の理解と共感			感情の種類、推論する心の発達、共同注意、心の理論						
第11回	戦争と文明1、エレクトロニクスが戦を制す一命を大切にす国が勝利する			太平洋戦争最大の激戦だったマリアナ・サイパンの戦いを映像で学び、日本がなぜ惨敗したか、原因を探る。					ビデオを使用	
第12回	戦争と文明2、原始、人間社会は平和だった			古代文明社会における「戦争」の始まりを、人類の歴史から探る。					ビデオを使用	
第13回	戦争と文明3、戦争と軍隊はこうして生まれた			軍事国家としての古代国家の誕生と、古代軍隊の特徴を、日本や世界の古代の歴史から探る。						
第14回	戦争と文明4、武士の誕生から戦国時代へー武士は農民の命を大切にす			長く誤解されてきた「武士の時代」の戦争について探る。とくに日本の戦国時代の合戦に関する俗説を正す。						
第15回	戦争と文明5、近代国家と「国民軍」の誕生ー庶民の苦難の時代の始まり			近代社会の到来は戦争と軍隊のあり方を根底から変えた。「近代軍隊」の実像に迫り、未来を展望する。					ビデオを使用	
評価方法及び評価基準	<p>(藤岡) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が表現されているかどうかを評価基準とします。</p> <p>(西沢) 毎回の講義で課す小レポートにより講義内容の理解度を評価します。</p> <p>(斉藤) レポートを課し、出席とあわせて、評価を行います。レポートは課された課題について、主体的に考えているかどうかを評価の基準とします。</p>									
課題等										
事前事後学修	授業で配布されるプリント、授業中に指示される文献等を参照して、理解を深めてください。事後学習時間の目安：週あたり3時間程度。									
教材教科書参考書	<p>(藤岡) 教科書は使用しません。参考書は、授業中に提示します。</p> <p>(斉藤) 教科書・教材はこちらでプリントを用意し、授業の際に配付します。参考書は適宜提示します。</p>									
留意点	(斉藤) 「歴史」は決して難しくありません。「面白そう」と思ったら、聞きに来て下さい。									

科目名	政治学（国際政治を含む）A		科目コード	W22001	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-02	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会科学系科目	選択	担当者的名	西東 克介			授業	形態	講義	単独
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 今日、社会全体がどちらかといえば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこで、この講義のねらいは、政治と私たちの社会がどのような関係にあるのかを受講者に理解・意識してもらうことにあります。それゆえ、講義では制度を多く扱うよりも、それらに密接に関わる理論や傾向、あるいは考え方に力点を置きます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 これらに基づいて、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」、もう一つのポリシーである活発なボランティア活動が、これからの社会ではますます重要になってくることを講義内容に関連させながら話していきます。									
到達目標	受講者には以下の3点の「答え」を相応に理解してもらえればと思う。 ・なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのか。 ・なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのか。 ・江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのか。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について			さらに、出欠や感想文とレポートの違い等の説明も行う。						
第2回	政治とは何か			学生に今までの理解で「政治」について知っていること、思っていること、感じていること等を用紙に書いてもらう。これを回収して西東がコメントしていく。						
第3回	権力とは何か・権威とは何か			M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力と権威について解説する。						
第4回	弘前市会議院2～4名を呼び、学生の市政への関心を高めていただく。			第5回の授業の初めにワークショップを30分開催し、その記録を取る。						
第5回	マス・メディアと政治			民主主義体制における政治家とマス・メディアには基本的に価値観の対立がある。						
第6回	民主主義			民主主義体制のメリットとデメリット。民主主義体制以外の独裁体制のデメリット。						
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化と			集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校の集団重視教育のように、制度に取り入れられている集団主義文化も存在する。私たちのこうした慣習は集団や組織にとってメリット・デメリットの双方が現れる。KYも良かれ悪しかれ集団主義文化である。具体例をあげながら、日米の文化について分析していく。						
第8回	18歳選挙権と参政権			18歳選挙権はすべての政党が賛成して決定された。そもそも日本国憲法第16条には請願権があり、議会や行政に対して一定の手続きはあるものの、国籍や年齢に関わらず意見を述べるができる。この権利と選挙権・被選挙権の違いについて考察する。						
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）			国際政治における権力・条約・国際連合の関係						
第10回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（1）			NHKのドキュメンタリー番組の鑑賞						
第11回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（2）			パレスチナ・イスラエル問題の歴史を見ていく。ユダヤ社会とアラブ社会の歴史を概説する。最後の30分、グループワークを行い、記録を取る。						
第12回	官僚制理論（1）			官僚制理論の基礎を考察していく。M. ウェーバーの推定した組織された社会の進行は今も続いている。こうした社会のメリット・デメリットを考えたい。						
第13回	官僚制理論（2）			行政官僚制による「天下り」問題と集団主義文化						
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化			戦後我が国社会は垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化に変わりつつある。だが、この水平的集団主義文化のデメリットはリーダーを生み出しにくい文化とも言われる。個人・集団・組織の自律・自立の視点を加えてこの問題を考察する。						
第15回	制度と慣習			M. ウェーバーは、制度の理論に文化を絡ませて研究業績を残した。そうした彼の研究の一部をヒントにした分析を解説する。						
評価方法及び評価基準	2回分のグループワークの記録（20%）と試験（80%）。文章の構成と論理性を中心に評価する。									
課題等	・完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かについて、ああでもない、こうでもないと考え続けていくことができればと思う。									
事前事後学修	・講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事の一つ読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み見返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	・教科書：橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN:978-4480071705 レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一芸社、2400円＋税。ISBN:978-4863591264									
留意点	講義中や講義後の質問・感想に遠慮は必要ありません。									

科目名	政治学（国際政治を含む）B		科目コード	W22002	単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-03	時間	30時間	学年			
区分	社会科学系科目	選択	担当名	西東 克介			授業	講義	単独	
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修					形態			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。怠けては保持されないことがあるかもしれない。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されている者である。私たちが努力していく方向を探るために、前期で学んだ基礎的知識を下に、さらに具体的に考察できる知識を学んでいきたい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>政治学Bは、人権に関する講義が多いので、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」の基礎にさせていただきたい。また、NPO（NGO）の講義で、もう一つのポリシーである活発なボランティア活動にいかしてほしい。</p>									
到達目標	<p>・完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かを考えていく。・受講者には、この「答え」をああでもない、こうでもないと考え続けていくことができればと思う。</p>									
授業計画										
回	主題	授業内容							備考	
第1回	本講義・展開方法・試験等について	さらに、出欠、感想文とレポートの違いについての確認。								
第2回	黒人差別の歴史的展開	米国黒人差別の歴史を植民地時代から19～20世紀までの概説する。								
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）	1950年代から1960年代までの公民権運動を撮影したものを再編集した動画の鑑賞。								
第4回	公民権運動の動画鑑賞（2）	翌週、この動画を見た感想をグループワークを行い、記録を取る。								
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質	M. ウェーバーの述べた政治家の資質は、政治の独特の問題への対応を除けば、あらゆる組織のリーダーにとって不可欠なものである。受講者にとって多少難解な点もあろうが、リーダーはリーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長していく。良き方向に進むのか、悪い方向に進むのか。このことをリーダーと周囲の人間は、常に配慮する必要がある。								
第6回	議院内閣制・大統領制とリーダーシップ	議院内閣制と大統領制の分析とリーダーシップの関係について考察する。								
第7回	圧力団体・公益法人・NPO	圧力団体・公益法人・NPOを概説し、メリット・デメリットを分析する。								
第8回	文民統制・自衛権・集団安全保障	民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、双方の自衛権と国連の集団安全保障概念を理解する。								
第9回	日本の政策過程	日本の政策過程について、1955以来形成されてきたパターンを分析・解説する。								
第10回	NGOとNPOのミッション	(NGOを含む) NPOの企業や行政とは異なる特徴は何か、また、そのミッションとは何か。これらを中心に考察する。								
第11回	NGOとNPOの機能と構造パターン	(NGOを含む) NPOの機能と構造パターンから、そのメリット・デメリットを考察していく。								
第12回	ドイツの前首相メルケル	ドイツの前首相メルケルについて、その生い立ちから首相における業績を紹介・分析。								
第13回	ウクライナへのロシアの武力攻撃	2022年2月24日ロシアはウクライナに侵攻し、戦争を始めた。これまでの状況について、理解に努める。								
第14回	欧州における性労働者の権利	欧州における性労働者の主張を学問的に分析。前回か今回のいずれかのテーマで、グループワークを行い、記録を取る。								
第15回	まとめと試験	全体的なまとめと試験								
評価方法及び評価基準	2回分(第2回と第14回)のグループワークの評価(20%)と試験1回(80%)。文章の構成と論理性を中心に評価する。									
課題等	受講者である学生自身が、様々な講義の中でこれが私の政治課題であると言えるテーマを見つけてほしい。政治の課題は世の中のあらゆる問題のほとんどに関わっているから。									
事前事後学修	・講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事の一つ読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み見返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	<p>・教科書：橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN:978-4480071705</p> <p>レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一芸社、2400円＋税。ISBN:978-4863591264</p>									
留意点	第1回目に出席できない学生は事前に連絡をしてください。									

科目名	行政学		科目コード	W22020	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-04	時間	30時間				
区分	社会科学系科目	選択	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] [キーワード：官僚制、行政国家化（組織化）、機能と構造、目的/手段のヒエラルキー] 高齢社会がさらに進み、福祉制度の充実・改善がなされている今日、経済状態が良からうが悪からうが、行政国家化現象は一層緻密に社会全体に拡大していきます。行政国家化、あるいは福祉国家化とは何か、についてM.ウエーバーの官僚制論から学んでいきます。									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] CP4、DP1、2に関連する。									
到達 目標	資本主義経済と民主主義の発展・成熟こそが、行政国家や福祉国家の現象を拡大・強化させていくことを理解する。基本的事項の暗記ではなく、その理解の積み重ねが自らの論理性を高めていく。このことを自覚しながら講義を聞き、質問・意見をぶつけられる学生になってください。理解のための中心は、組織と文化にあります。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等		加えて、レポート課題の作成方法や出欠の扱い方について説明。							
第2回	行政とは何か		三権分立、行政法学、経営学、PDCAサイクル等からの説明							
第3回	行政国家とは何か		行政国家を大きな政府、福祉国家、情報社会等から説明							
第4回	官僚制とは何か		近代官僚制を近代以前の官僚制、企業官僚制、その他の官僚制から分析							
第5回	M.ウエーバーの官僚制		M.ウエーバーの支配の正当性と官僚制理論							
第6回	小さな政府と大きな政府		19・20世紀の国家論と冷戦構造下の政党論							
第7回	我が国の行政組織（1）		内閣（政治組織）と行政各省庁（公務員組織）の原理							
第8回	我が国の行政組織（2）		行政各省庁の内部組織の原理とセクショナリズム							
第9回	我が国の地方行政組織（1）		戦前・戦後直後・55年体制以降の地方行政組織							
第10回	我が国の地方行政組織（2）		2000年以降の地方行政組織とその意義							
第11回	ジェネラリストとスペシャリスト		日米の行政組織におけるジェネラリストとスペシャリスト、エキスパートとプロフェッショナルを分析・考察する。							
第12回	第一線職員のジレンマと行政文化		第一線職員のジレンマを我が国の行政文化（集団主義文化）により考察							
第13回	行政統制と行政責任		行政国家的な現象の中で、ますます行政統制と行政責任は、形式的であまい側面が強くなっている。なぜ、こうした側面が強くなっているかを理解。							
第14回	アカウントビリティと評価		行政統制と行政責任を実質的なものにするために、この10数年で、徐々に行政現場にアカウントビリティと評価の制度が採用されている。そのメリットとデメリットについて理解。							
第15回	まとめと試験		全体のまとめと試験							
評価 方法 及び 評価 基準	レポート1回（50%）と試験1回（50%） 文章の構成と論理性を中心に評価する。									
課題等	日本では、小学校から高校までは、個人の異なった考え方や行動を批判や否定されたことが多かったのではないのでしょうか。このゼミでは、こうしたことを学生ひとり一人が課題として意識して考え続けてほしいのです。									
事前事後 学修	組織と（本来の）個人をいかにして調和できるのかを日常的に考え続けてほしいのです。簡単ではありませんが、少しずつ努力してみてください。									
教材 教科書 参考書	レポート課題図書兼教科書：土岐寛編著『行政と地方自治の現在』北樹出版、2015年。ISBN:978-4779304521									
留意点	第1回目の講義に出席できない学生は西東まで事前に連絡をしてください。									

科目名	ローカル・ガバナンス		科目コード	W33028	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-05	時間	30時間	学年			
区分	社会科学系科目	選択	担当者名	西東 克介			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 本講義は政策論の基盤となる講義を目指している。我が国の組織は、良かれ悪しかれ、戦後猛烈な勢いで発展してきた。だが、この30年ほどは、それまでの勢いはない。その基盤となった個人の能力が衰退しつつあると言われる。個人の能力は集団・組織において向上もするが、逆に下降もする。近年地域活性化が国をあげて促進されているが、個人の能力が培われる環境づくりと具体的な方法に関する議論が不可欠となろう。本講義は、そうした議論を進めていく際の基本的な理論を若干の歴史的過程を加えて行うものである。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 個人の能力を組織の中でどのように磨いていくかは、まさに本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」と活発なボランティア活動を目指す学生には欠かせない講義と言えよう。									
到達目標	地域の自律と自立を個人のレベルからじっくりと考察し、そうした能力を集団・組織へと地道に培う知性を育ててもらう。これまで学生が実践しているものがあれば継続してもらい、本講義により新たに実践したいものがあれば、それを加えていただければと思う。本講義は暗記する能力を養うものではなく、とにかく考える能力、できれば少しでも実践する能力の基盤を養うものにしてもらいたい。ローカル・ガバナンスは、一人ひとりのガバナンス能力向上によって支えられていくものだからである。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	自律を個人・集団・組織から考える			自律について、個人・集団・組織の視点から各グループで話し合いをしながら考えていく。						
第2回	自立を個人・集団・組織から考える			自立について、個人・集団・組織の視点から各グループで話し合いをしながら考えていく。						
第3回	地方政府の自律を考える			(我が国) 地方政府がなぜ自律(精神)に欠けるのかを官僚制論から考察する。						
第4回	地方政府の自立を考える			(我が国) 地方政府がなぜ自立できないのかを制度と民主主義論から考察する。						
第5回	governmentとgovernanceの違い			組織を生態(形式)的ではなく、動態(実体)的な視点から考察する。						
第6回	governanceとしての我が国地方政府			動態的な視点から我が国地方政府を分析し、将来像を描く。						
第7回	governanceとしての米国地方政府			動態的な視点から米国地方政府を分析し、将来像を描く。						
第8回	A. トクヴィルの自治の精神			およそ180年前、仏人A. トクヴィルは、米国人の動態をどのように分析したのか。						
第9回	我が国集団主義教育の組織文化			我が国戦後の公教育は日本国憲法の理念にも関わらず、集団重視(主義)の教育をずっと行ってきた。このことと、governanceの関係を考察する。						
第10回	米国個人主義教育の組織文化			米国は20世紀への転換期以来個人重視(主義)の教育を強化してきた。このことと、governanceの関係を考察する。						
第11回	合理化とグローバリズム・ローカリズム			資本主義による経済発展は合理化を進め、民主主義の展開はこれを促進する。さらに、両者の発展はグローバリズムを拡大・浸透させる。これらとローカリズムの関係を考察する。						
第12回	専門職と能力			グローバリズムの拡大以前から専門職種の拡大が進んでいる。米国では世界で最も早くから専門職が拡大していった。我が国でもこの20年ほどでかなり拡大してきた。専門職の分類と基盤となる能力について考察する。						
第13回	専門職の自立と組織			行政や企業を中心に、組織はジェネラリストと専門職から構成されている。こうした組織のメリット・デメリットを分析・考察する。						
第14回	ジェネラリスト・スペシャリストと組織			行政はジェネラリストと専門職を含むスペシャリストによって構成されている。こうした構成と行政組織のgovernanceの関係を分析・考察する。						
第15回	ローカル・ガバナンスとは			ローカル・ガバナンスの意義とまとめを私たち自身・集団・組織に当てはめて考察する。						
評価方法及び評価基準	課題レポートを1回提出。試験を1回。双方を50点満点で採点し、合計します。3分の2以上出席した学生を採点します。									
課題等	・卒業するまでの3年半で、自らのいかなる能力に磨きをかけていくのかをときどき5分程度でもじっくりと考える。									
事前事後学修	・講義の前日は、社会問題に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	・教科書：藤井浩司・中村祐司(編著)『地方自治の基礎』一藝社(2017)、2400円。ISBN:978-4863591264									
留意点	第1回目の講義を欠席する予定の学生は事前に西東まで連絡を取り、欠席理由を伝えること。									

科目名	経済学（国際経済を含む）A	科目コード	W22005	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
		科目ナンバリング	W-TFSS2-06	時間	30時間	学年			
区分	社会科学系系列科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・3に関連します。 カリキュラムポリシーの1に関連します。</p>								
到達目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容						備 考	
第1回	序 論	授業の目的、概要、方法について説明します。							
第2回	重商主義の時代	アダム・スミスの時代と生涯について学びます。							
第3回	市場メカニズム	アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。							
第4回	小さな政府	アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます。							
第5回	産業革命の時代	リカードの時代と生涯について学びます。							
第6回	国際貿易の原理	リカードの比較生産費説について学びます。							
第7回	階級闘争の時代	マルクスの時代と生涯について学びます。							
第8回	資本主義の構造	マルクスの資本主義の構造的分析について学びます。							
第9回	資本主義の歴史	マルクスの資本主義の歴史的分析について学びます。							
第10回	ヴィクトリア時代	マーシャルの時代と生涯について学びます。							
第11回	市場経済の理論	マーシャルの需給均衡理論について学びます。							
第12回	大恐慌の時代	ケインズの時代と生涯について学びます。							
第13回	失業の原因	ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。							
第14回	福祉国家の形成	ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。							
第15回	まとめ	授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。							
評価方法及び評価基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>								
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。								
事前事後学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。								
教材教科書参考書	（参考書）八木紀一郎『経済思想』（第2版）日本経済新聞出版社、2011年、ISBN：9784532112431 ※品切中のため新品を入手することはできません。								
留意点									

科目名	経済学（国際経済を含む）B	科目コード	W22006	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
		科目ナンバリング	W-TFSS2-07	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会科学系科目 教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択 選択必修 必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現代の資本主義経済の構造と分析方法、マクロ経済政策の必要性とその効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2・3に関連します。</p> <p>カリキュラムポリシーの1に関連します。</p>								
到達目標	現代経済の基本的メカニズムを学び、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。								
授 業 計 画									
回	主 題	授 業 内 容						備 考	
第1回	序 論	授業の目的、概要、方法について説明します。							
第2回	日本経済の動き	戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。							
第3回	マクロ経済分析	現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。							
第4回	失業の原因	失業の定義、概念、原因について学びます。							
第5回	総生産の決定	総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。							
第6回	財政政策の効果	政府の役割と財政政策の効果について学びます。							
第7回	財政赤字と失業	財政政策の運用と限界について学びます。							
第8回	貿易の効果	貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。							
第9回	為替レート	為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。							
第10回	金融市場の役割	金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。							
第11回	利子率の決定	利子率の決定と資産選択の原理について学びます。							
第12回	金融政策の効果	中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。							
第13回	物価の変動	物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。							
第14回	経済成長の戦略	経済成長の戦略を学び、今後の日本経済を展望します。							
第15回	まとめ	授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。							
評価方法及び評価基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。</p> <p>2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>								
課題等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。								
事前事後学習	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。								
教材教科書参考書	（参考書）塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』河出書房新社、2018年、ISBN：9784309248417								
留意点									

科目名	法学（国際法を含む）A		科目コード	W22007	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-08		30時間				
区分	社会科学系科目	選択	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本講では、「法」という社会のルール（社会規範）について、他の社会規範とも比較しつつ、その特色や存在形態などに関する概括的な理解の形成をはかる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<p>自立した一人として「法」と向き合い、「法」を用いていける基礎を築くことはもとより、将来、援助者として不利な立場の人々に関わる際に、それらの人々の権利や利益を適切に擁護し得る基礎としての知識や理解の形成を目指す。</p>									
授業計画										
回	主 題			授業内容				備考		
第1回	「法」とは何か①			社会生活における「法」						
第2回	「法」とは何か②			「法」の存在形態						
第3回	「法」とは何か③			「法」は誰がつくるのか						
第4回	「法」の種類①			民事法と刑事法						
第5回	「法」の種類②			公法と私法						
第6回	「法」の種類③			実体法と手続法						
第7回	「法」の種類④			国家法と自治法						
第8回	「法」の種類⑤			市民法と社会法						
第9回	「法」の実現①			「法」の遵守						
第10回	「法」の実現③			「法」と裁判						
第11回	「法」の実現③			「法」と法律家						
第12回	「法」の実現④			「法」の適用						
第13回	「法」の実現⑤			「法」の解釈						
第14回	「法」の実現⑥			「法」解釈の科学性						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価方法 及び 評価 基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前事後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	五十嵐清 『法学入門[第4版 新装版]』 日本評論社									
留意点	法律の条文等をその場で参考出来るよう、六法類などを常に持参すること。 随時、グループワークやディスカッションを行う。									

科目名	法学（国際法を含む）B		科目コード	W22008	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	社会科学系科目	選択	科目ナンバリング	W-TFSS1-09	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修	担当者名							
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「法学A」で学んだ法に関する基礎知識を踏まえて、具体的な法規範として、主に「社会福祉法」をとりあげ、逐条的に理解を深めていく。こうした学びを通して、福祉実践の実定法上の根拠を会得することを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	「法学A」同様に、将来、援助者として「権利擁護」を行う為の基礎的な力を養成することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉と法			わが国の社会福祉法制						
第2回	「社会福祉法」前史①			「社会事業」の成立						
第3回	「社会福祉法」前史②			戦後社会福祉法制の発足						
第4回	「社会福祉法」前史③			「社会福祉事業法」の制定						
第5回	「社会福祉法」を学ぶ①			社会福祉法の目的および社会福祉事業の定義						
第6回	「社会福祉法」を学ぶ②			福祉事務所とその所掌事務						
第7回	「社会福祉法」を学ぶ③			社会福祉法人①～社会福祉法人の誕生						
第8回	「社会福祉法」を学ぶ④			社会福祉法人②～設立と組織						
第9回	「社会福祉法」を学ぶ⑤			社会福祉法人③～解散及び成算並びに合併						
第10回	「社会福祉法」を学ぶ⑥			社会福祉法人④～助成および監督						
第11回	「社会福祉法」を学ぶ⑦			社会福祉事業～経営主体、経営の準則、規制と監督						
第12回	「社会福祉法」を学ぶ⑧			福祉サービスの適切な利用						
第13回	「社会福祉法」を学ぶ⑨			地域福祉の推進						
第14回	「社会福祉法」を学ぶ⑩			最近の立法動向						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前 事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	教室でプリントを配布する。									
留意点	法律の条文等をその場で参考出来るよう、六法類などを常に持参すること。 随時、グループワークやディスカッションを行う。									

科目名	社会学 A		科目コード	W22009	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-10						
区分	社会科学系列科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択必修 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対する幅広い見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、家族、ジェンダー、社会システム等。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、カリキュラムポリシーの2、3に関連する</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実に行っている社会現象を、社会学の概念を用いて理解できるようになる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会学とは何か			社会科学と社会学						
第2回	自己と他者（1）			自己と他者の関係						
第3回	自己と他者（2）			社会化						
第4回	自己と他者（3）			相互行為						
第5回	家族とジェンダー（1）			家族に関する基本的な概念						
第6回	家族とジェンダー（2）			ジェンダーと近代家族						
第7回	家族とジェンダー（3）			家族の変動						
第8回	健康（1）			自殺、依存症						
第9回	健康（2）			慢性疾患、スティグマ						
第10回	労働（1）			労働市場の性質とルール						
第11回	労働（2）			戦後日本における労働をめぐる取り組み						
第12回	世代（1）			ライフサイクル、ライフコース						
第13回	世代（2）			個人化と社会問題						
第14回	社会システム（1）			社会システムとは何か						
第15回	社会システム（2）			社会階層システム						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかという点を試す問題を出します。論述問題に関しては、見解のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等										
事前 事後 学修	<p>使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)</p>									
留意点										

科目名	社会学B		科目コード	W22010	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-11						
区分	社会科学系列科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択必修 必修								
授業の 概要等	[授業の主旨] 社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対する幅広い見方を学ぶ。扱うテーマは、組織・集団、人口、グローバリゼーション、社会変動、地域、社会的格差等。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、カリキュラムポリシーの2、3に関連する									
	到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実に行っている社会現象を、社会学の概念を用いて理解できるようになる。 								
授業計画										
回	主 題			授業内容				備考		
第1回	組織と集団（1）			集団・組織の概念と分類						
第2回	組織と集団（2）			非営利組織						
第3回	人口（1）			高齢化、少子化						
第4回	人口（2）			人口移動						
第5回	グローバリゼーション			グローバリゼーションと社会						
第6回	社会変動（1）			前近代社会から近代社会へ						
第7回	社会変動（2）			産業化、情報社会化、消費社会化						
第8回	地域（1）			コミュニティとアソシエーション						
第9回	地域（2）			限界集落、ソーシャルキャピタル						
第10回	環境			環境問題と持続可能性						
第11回	社会的格差（1）			格差と貧困						
第12回	社会的格差（2）			雇用格差、教育格差、健康格差						
第13回	社会政策と社会問題			産業社会と社会政策						
第14回	差別と偏見			社会的排除、偏見、差別						
第15回	災害と復興			災害と社会						
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかという点を試す問題を出します。論述問題に関しては、見解のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。									
課題等										
事前事 後学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)									
留意点										

科目名	政治思想史 A		科目コード	W22011	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-12		30時間				
区分	社会科学系科目	選択	担当者名	村松 恵二			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(高一種【公民】)	必修								
授業の概要等	<p>[キーワード: 自由主義 民主主義 保守主義] 政治思想史の講義では、政治思想の歴史をたどりながら、政治理念・政治思想(〇〇主義)に関して、基礎的知識を身につけ、政治的なものの考え方の特徴について学びます。A・Bあわせて、福祉国家を支える政治思想の形成過程が理解できるように学びます。</p> <p>政治思想史Aでは、マキアヴェリやバークなどから、政治というもののもつ独特の論理について学びます。また、ホッブズ、ロック、ルソーなどから、現在の先進諸国の政治原理である自由民主主義を構成する要素(個人主義と自由主義、民主主義と平等)について学びます。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>「規制緩和」と「小さい政府」が要求されている現在でも、国民生活のすべてにわたり、政治が影響を及ぼしているという点では、基本的な変化はありません。この講義では、福祉を考える上で、ますます重要になっている政治について、とりわけ政治理念、政治思想という観点から、学ぶことが目標です。</p> <p>政治思想史Aでは、講義全体を通じて、自由民主主義を構成する二つの要素(自由主義と民主主義)の区別と関連を理解することが到達目標です。個人主義、自由主義、民主主義、平等などの概念を正確に把握し、使いこなせるようになることです。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)							備 考	
第1回	ガイダンス	講義の目標や他の授業科目との関係、聴講の際の注意事項など								
第2回	マキアヴェリの政治思想	マキアヴェリの政治思想、とくに政治と道徳の関係について								
第3回	ホッブズの政治思想(1)	ホッブズの社会契約論の特徴、生存権の重要性について								
第4回	ホッブズの政治思想(2)	主権の絶対性をめぐる理論について								
第5回	ロックの政治思想(1)	ロックの略歴、彼の政治思想と名誉革命との関係について								
第6回	ロックの政治思想(2)	所有権を正当化する理論を中心に								
第7回	ロックの政治思想(3)	信教の自由をめぐる理論について、レポート課題について説明								
第8回	ルソーの政治思想(1)	ルソーの略歴、18世紀の特徴などについて								
第9回	ルソーの政治思想(2)	ルソーの現状批判の諸理論について								
第10回	ルソーの政治思想(3)	ルソー社会契約論の特徴、自治の理論について								
第11回	ヒュームの政治思想	社会契約論批判について、功利主義的説明の方法について								
第12回	バークの政治思想(1)	バークの略歴、フランス革命の与えた衝撃について								
第13回	バークの政治思想(2)	「フランス革命についての考察」を中心に保守主義原理について								
第14回	バークの政治思想(3)	保守主義原理の展開について								
第15回	まとめ	講義全体を振り返りつつ重要な点を再確認する、期末テスト実施								
評価方法及び評価基準	<p>期末試験、レポート、学習状況を総合的に評価します。政治思想の基本的知識を問う問題を出します。達意の日本語になっているかどうか重要な評価要素です。レポート提出等も含め、しっかり勉強してもらい、確実に単位を確保できる方法を考えます。試験40点、レポート評価点30点、平常点評価30点。</p>									
課題等	レポートは添削して返却します。とにかく、達意の日本語が書けるように普段から努力してください。									
事前事後学修	講義後にレジュメをしっかり復讐すること。									
教材教科書参考書	テキストは使用しません。講義の際に、レジュメを配付します。									
留意点	社会や政治のあり方に問題意識をもって(新聞やテレビニュースを見ながら)聴講してください。									

科目名	政治思想史B		科目コード	W22012	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS2-13		30時間				
区分	社会科学系科目	選択	担当者名	村松 惠二			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(高一種【公民】)	必修								
授業の 概要等	<p>〔キーワード：自由民主主義 社会主義 福祉国家〕 政治思想史の講義では、政治思想の歴史をたどりながら、政治理念・政治思想（〇〇主義）に関して、基礎的知識を身につけ、政治的なものの考え方の特徴について学びます。A・Bあわせて、福祉国家を支える政治思想の形成過程が理解できるように学びます。</p> <p>政治思想史Bでは、J・S・ミルやマルクス、スペンサー、グリーンなどの思想家を取りあげて、19世紀以降に展開される、自由民主主義、社会主義、さらに福祉国家を支える政治思想について学びながら、自由民主主義と福祉国家の将来を考えます。</p>									
	<p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>「規制緩和」と「小さい政府」が要求されている現在でも、国民生活のすべてにわたり、政治が影響を及ぼしているという点では、基本的な変化はありません。この講義では、福祉を考える上でますます重要になっている政治について、とりわけ政治理念、政治思想という観点から、学ぶことが目標です。</p> <p>政治思想史Bでは、講義を通じて、自由主義と社会主義の対抗関係のなかで福祉国家が形成されてくる過程を理解してもらいます。福祉政策をめぐる現在の政策的対立である、新自由主義と社会民主主義の政策体系について、理解することが到達目標です。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容（授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む）						備 考	
第1回	ベンサム——自由主義の民主主義化		ガイダンスの後、功利主義の理論と参政権の拡大の理論について							
第2回	J・S・ミルの自由論（1）		ベンサム主義の修正について							
第3回	J・S・ミルの自由論（2）		消極的自由と積極的自由（道徳的自由）について							
第4回	J・S・ミルの自由論（3）		大衆民主政と多数派の専制について							
第5回	社会主義の政治思想（1）		初期マルクスの政治思想							
第6回	社会主義の政治思想（2）		エンゲルスの政治思想について							
第7回	社会主義の政治思想（3）		マルクスの資本主義経済分析、「脱成長コミュニズム」論について							
第8回	スペンサーの社会進化論		資本主義経済への信頼と自由放任論							
第9回	社会ダーウィニズムの思想（1）		帝国主義政策と人種論を正当化した理論について							
第10回	社会ダーウィニズムの思想（2）		帝国主義批判の理論							
第11回	グリーン理想主義政治思想（1）		19世紀後半のイギリスと自由主義の修正について							
第12回	グリーン理想主義政治思想（2）		契約の自由の修正および国家の役割の変化と社会政策について							
第13回	ホブハウスの福祉国家思想		現代福祉国家を準備したホブハウスの政治思想について							
第14回	新自由主義と社会民主主義		福祉政策をめぐる二つの潮流の対立について							
第15回	まとめ		講義を振り返りつつ重要な点を再確認する、期末テスト実施							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験、レポート、学習状況を総合的に評価します。政治思想の基本的知識を問う問題を出します。達意の日本語になっているかどうか重要な評価要素です。レポート提出等も含め、しっかり勉強してもらい、確実に単位を確保できる方法を考えます。試験40点、レポート評価点30点、平常点評価30点</p>									
課題等	レポートは添削して返却します。とにかく、達意の日本語が書けるように普段から努力してください。									
事前 事後 学修	講義後にレジメをしっかりと復習すること									
教材 教科書 参考書	テキストは使用しません。講義の際にレジメを配付します。									
留意点	社会や政治のあり方に問題意識をもって（新聞やテレビニュースを見ながら）聴講してください。									

科目名	社会科学特講 A		科目コード	W22013	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-SWSS2-11.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉学支援科目 教職科目(高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	柘植 秀通			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 世界の歴史について、特に福祉的観点またキリスト教の観点を踏まえて、学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連する。									
到達目標	世界の歴史の繋がりを、特に日本もその中に入っていることを理解する。また、特に、種々の時代にも貧困・病・老の問題があり、そこへの福祉的働き、特に宗教による働きも理解できるようにする。									
授業計画										
回	主 題			授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション			授業の流れの解説				講義		
第2回	人類の誕生と拡散			アフリカでの人類の誕生と、その後の拡散の歴史を見る。特に、複数人類種が誕生しながら、現生人類であるホモサピエンスのみが残る過程について学んでいく。				講義		
第3回	文明の誕生と初期の発展			新石器時代の到来と、その発展について学ぶ。特に古代オリエント、インダス文明、黄河・長江文明の展開、さらに日本における縄文文明についても学ぶ。				講義・ グループワーク		
第4回	領域国家の誕生と展開 1			都市国家から、領域国家への発展の歴史を見ていく。特にBC 3000年紀の古代オリエントの歴史的展開、法制度の整備についても考察する。また、当時の中国、三皇五帝から夏王朝、さらに殷・周の時代展開を概括する。また、当時の縄文文化の状況をも見ていく。				講義		
第5回	領域国家の誕生と展開 2			都市国家から、領域国家への発展の歴史を見ていく。特にBC 2000年紀の古代オリエントの歴史的展開、法制度の整備についても考察する。また、当時の中国、夏王朝から殷・周の時代展開を少し詳細に学ぶ。				講義・ グループワーク		
第6回	聖書の民の興亡について			BC 2000年紀半ばから1000年紀に至る、ヘブライ民族、つまりイスラエルの民の興亡を、エジプト・メソポタミアの歴史的展開と合わせて考察する。同時に、セム系民族であるフェニキア・アラビア民族についても概観する。				講義		
第7回	普遍的人類の思想の出現した軸時代と古代オリエントの統一			ザラツストラ（ゾロアスター教の創始者）やブッダ、孔子・老子、ギリシャのソクラテス、さらにユダヤ教の成立に至る、思想・宗教における大展開の時代を概観し、同時に出現してきた古代の大領域国家、特にアッシリアからアケメネス朝ペルシヤに至る過程を見る。				講義・ グループワーク		
第8回	古代ギリシアの成立と展開			ギリシャ文明の成立から、特にアテネ・スパルタの興亡、さらにはアレクサンドロス大王の出現からヘレニズム世界の成立・展開を見る。				講義・ グループワーク		
第9回	古代ローマの成立と展開			ローマ帝国の成立と展開を見ていく。特に、ポエニ戦争から地中海世界の統一に至る歴史を概観する。その中で、グラックス兄弟のように、貧民を支えようとした活動についても見ていく。				講義		
第10回	バビロン解放後のユダヤ人の歴史			第2神殿の建立から、ユダヤ教教義の確立、マカベヤ戦争からハスモン王朝の成立崩壊の歴史、さらにヘロデによる篡奪等、キリスト誕生の頃までのユダヤの歴史を見ていく。				講義		
第11回	古代中国の歴史的展開			封建制度の崩壊から、春秋戦国時代の歴史を見ていく。中小都市国家群が集約され、戦国の七雄に固まっていき、相互の興亡の中で、やがて秦が強国となり、統一に至るまでの歴史を見ていく。また、当時の韓半島から日本の歴史をも知る。				講義・ グループワーク		
第12回	紀元前後の世界の展開			中国における秦帝国の衰退から漢楚の興亡、さらに前後400年に渡る漢の時代を概観する。また、同時期のローマの内戦からカエサルが登場、帝国の成立と初期のローマ帝国について学ぶ。特に、ローマにおいては、貧民への施しや、大衆保護を基本とした政策を見ていく。				講義		
第13回	古代文明の衰退と分裂の時代			強大さを誇った、漢・ローマの古代文明帝国が衰退し、特に、遊牧民族との相克の中で、分裂していく姿と、西欧におけるローマ教皇が民衆を支えるカリタスの運動についても学ぶ。また、同時代、那馬台国から大和王朝の成立に至る日本の状況についても考えていく。				講義・ グループワーク		
第14回	中世初期の時代			ヨーロッパの東西の変遷、特に西欧・北アフリカの分裂からフランク王国の成立に至る時代を見ていく。また、中国においては、五胡十六国の動乱から南北朝さらに隋唐の帝国成立に至る過程を見ていく。また、倭の五王を初めとしたこの時代の和政権にも触れていく。				講義・ グループワーク		
第15回	イスラムの成立と展開			ムハンマドの誕生から、正統カリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝の展開などを見ていく。特に、地中海世界の西方と南岸の全てがイスラム世界に入っていく過程を学ぶ。				講義		
評価方法及び評価基準	授業への参加度50%、レポート50%で評価を行う。レポートを自分が気になった時代と地域の変遷について自分なりの考察も交えて、2000字程度で作成する。									
課題等	課題は、随時提供し、次回に提出する。									
事前事後学修	次回の内容に関し、事前にある程度学んでくる。30程度が望ましい。									
教材教科書参考書	特に、定めないが、できれば高校の世界史または日本史の教科書を持参することを勧める。									
留意点	授業での発言に重点を置く。									

科目名	社会科学特講B		科目コード	W22014	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
	教職科目(高一種【地歴】)		科目ナンバリング	W-SWSS2-12.	時間	30時間	学年		講義	
区分	社会福祉学支援科目	選択必修	担当者名	柘植 秀通			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>世界の歴史について、特に福祉的観点またキリスト教の観点を踏まえて、学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの11に関連する。</p>									
到達目標	世界の歴史の繋がりを、特に日本もその中に入っていることを理解する。また、特に、種々の時代にも貧困・病・老の問題があり、そこへの福祉的働き、特に宗教による働きも理解できるようになる。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション			後期授業の流れの解説					講義	
第2回	7世紀から10世紀の時代			隋唐の時代と、当時の大和政権。特に聖徳太子や光明子皇后による貧困者支援についても考察する。さらにアッパース朝との関わりなども考察する。					講義	
第3回	経済中心の国家の誕生と中世			唐宋五代から経済大国としての宋へと至る時代の中国を中心にみていく。また、唐末から中国から離れた日本の状況、中国文化を離れた日本式文化の誕生から武士の台頭と宋との関係を重視した平氏政権などへの過程を見る。また、その中で慈善事業を行った仏教、特に市の聖「空也」から弘法大師の働きなどに触れる。					講義	
第4回	ヨーロッパ中世の展開			フランク王国から神聖ローマ帝国の誕生、さらにそうした統一ヨーロッパが分裂し、小国家に分かれながら展開していく、中世のヨーロッパ、特に教会と世俗権力について考えながら、十字軍までを視野に入れる。					講義・グループワーク	
第5回	漠北と中原の東洋の葛藤からモンゴル帝国の成立と展開、さらに世界という概念の成立			五胡十六国から遼・金さらにモンゴル帝国につながる漠北と中原との関わりについて考察。また、中近東・ヨーロッパまでを捉えた中で成立する世界帝国について考察。特に現在の一路との関わりについても考える。また、その中で元寇を迎えた日本の状況も考察する。					講義	
第6回	大航海時代			スペイン・ポルトガルの大航海時代はもちろんのこと、その以前14世紀にあった明の大航海時代についても考察。また、遼って、モンゴル帝国の衰退の過程を見ていき、中華においては明の成立・展開も見ていく。その中で、大航海時代にあった様々な実態についても考察する。					講義・グループワーク	
第7回	宗教改革の時代から近世に向かって			16世紀の宗教改革の広がりや展開について考察する。同時に、カウンター宗教改革の運動を通して、日本に伝えられたキリスト教と西歐文化の影響についても考察する。さらには、その後の戦国末から江戸初期はもちろん、その時期の中国の動き、さらに明末清初と朝鮮出兵、李氏朝鮮の対応などについても考察する。					講義・グループワーク	
第8回	近代へ至る社会変革（欧州を中心に）			16世紀のエンクロージャームーブメントからエリザベス教団法に至る過程、さらにその時期の経済的環境、またそこに与える日本の影響などについて学ぶ。さらに、17世紀の英国の清教徒革命やオランダの独立、ビルグリムファーザーズ等の宗教的活動から経済的活動について学ぶ。					講義	
第9回	近代的慈善活動と社会の変転（資本主義への胎動）			17世紀後半からイギリスの重商主義政策と社会の発展。特に名草革命を経て後の資本主義の胎動とワークハウス運動を始めた、慈善運動の広がり。また、同時期のプロシアの台頭とヨーロッパ世界の変遷。同時に、清帝国の発展、特に3世の春。また、日本においても、保科の政権から綱吉に至る生命尊重の政治政策の展開。					講義・グループワーク	
第10回	18世紀末から19世紀半ばにかけて			フランス革命からナポレオン戦争の時代。また、ロシアの発展とイスラム諸国との相克。また、当時の資本主義の本格的な進展の時代と貧富の格差の増大、新救貧法に至る差別的考え方の時代。峠の時代後、幕府の諸改革とその揺らぎ。藩政改革の動きと福祉的政策。					講義・グループワーク	
第11回	幕末・維新の激動と世界：帝国主義の嵐			幕末・維新の歴史。特に、ウィーン体制後のイギリスの帝国主義的展開。プロシアの台頭とドイツ帝国の誕生。同時に貧困に対する意識の発展とCOSやセツルメント運動の展開					講義	
第12回	日清・日露戦争から第一次世界大戦			英国の世界支配の中で、米独の経済的勃興と、相対的英国の衰え。その中で、維新から日清・日露に至るまでの近代へ向けての改革と、その間のアジアの情勢。					講義	
第13回	戦間期のヨーロッパと日本およびアジアの激動			戦間期における世界の動き。自由平等へ向けての動きと共に、世界恐慌からファシズムの登場、さらに平等化への世界的運動の状況。					講義	
第14回	第2次世界大戦の意味と世界			第2次世界大戦へ向けて、世界がどのように動いていったかを追求する。					講義・グループワーク	
第15回	戦後の体制（福祉国家の誕生）とその崩壊			戦後の国連体制、さらに経済におけるブレトンウッズ体制と福祉国家について。その中で、世界同時成長という時代とその終焉のいみについて					講義・グループワーク	
評価方法及び評価基準	授業への参加度50%、レポート50%で評価を行う。レポートを自分が気になった時代と地域の変遷について自分なりの考察も交えて、2000字程度で作成する。									
課題等	課題は、随時提供し、次回に提出する。									
事前事後学習	次回の内容に関し、事前にある程度学んでくる。30程度が望ましい。									
教材教科書参考書	特に、定めないが、できれば高校の世界史または日本史の教科書を持参することを勧める。									
留意点	歴史を通して、自らの現在を見直すことができるように、単なる過去にとらえずに、現在生きるものとして歴史を見る姿勢をもって学ぶこと。									

科目名	宗教学（キリスト教）A		科目コード	W23001	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-01H						
区分	総合科学系列科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
	教職科目（中一種【社会】） 教職資格（高一種【公民】）	必修								
授業の 概要等	【授業の主旨】									
	キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教の基礎的知識及び宗教についての基本的知識を得ることを第一の目的とする。聖書を学ぶことによって自分自身や現代社会を考察し、社会福祉を学ぶ上での一助としたい。									
到達 目標	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】									
	ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	1. キリスト教や宗教についての基本的知識を得る。									
	2. キリスト教的観点から物事を見るという価値観の広がりを得る。 3. 聖書が語るメッセージを受け取り、自分自身や社会の望ましいあり方について考える。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	基礎的知識			キリスト教や聖書の基礎的知識、宗教とは何か						
第2回	弘前とキリスト教、弘前学院とは			キリスト教主義学校、弘前のキリスト教と弘前学院						
第3回	キリスト教の歴史			キリスト教史概説、ユダヤ教・イスラームも含めて						
第4回	社会福祉とキリスト教			キリスト教的社会福祉観、社会福祉とキリスト教						
第5回	旧約聖書概論			ユダヤ教との関連、旧約聖書の思想と歴史、39巻の概説						
第6回	旧約聖書を読む（1）			創世記の天地創造物語は何を伝えようとしているか					ディスカッション	
第7回	旧約聖書を読む（2）			創世記の楽園喪失物語とわたしたち人間の姿					ディスカッション	
第8回	旧約聖書を読む（3）			イスラエルの苦難の歴史、サムエル記と列王記を中心に					ディスカッション	
第9回	旧約聖書を読む（4）			知恵文学と預言書、諸書を概観					ディスカッション	
第10回	新約聖書概説			新約聖書は何故書かれたのか、イエス・キリストとは、27巻の概説						
第11回	福音書を読む（1）			イエス誕生物語とクリスマスの意味					ディスカッション	
第12回	福音書を読む（2）			イエスの語ったたとえ話、奇跡物語をどう理解するか					ディスカッション	
第13回	福音書を読む（3）			イエスは何故殺されたのか、死と復活の謎					ディスカッション	
第14回	新約聖書のその他文書			パウロ書簡とパウロの働き、初代教会の成立と迫害、ローマ帝国との関係						
第15回	社会福祉的思考のために			弱くされた者、虐げられた者のために生きたイエスの姿						
評価 方法 及び 評価 基準	期末試験50%、講義への出席と参加30%、木曜日の礼拝出席とその感想文20%で評価する。 期末試験は講義中ふれたポイントが理解できているか問う問題を出題予定。									
課題等	講義時に指示する。									
事前事後 学修	講義時に指示した次回の聖書テキストを読んでおくこと。 万が一欠席した場合は友人のノートを書しプリントをコピーし理解に努めること。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』 ※自分の持っている聖書が新共同訳かどうか確認しておくこと（入学時購入者は新共同訳である）。 プリントは必要に応じて配布する。ノートとプリントをとじるファイルは各自用意しておくこと。									
留意点	木曜日10：20からの礼拝に参加すること。 本講義及び礼拝は信仰を強制するものではない。疑問や不安には応えつつ講義を行う。									

科目名	宗教学（キリスト教）B		科目コード	W23002	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-02H						
区分	総合科学系列科目	必修	担当者名	石垣 雅子				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種【社会】) 教職資格(高一種【公民】)	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 キリスト教は他者を尊重し、愛し、お互いに助け合うことを大切に考える。このことは社会福祉の精神とも重なるものである。わたしたちがどのようにに他者と関わりあうべきなのか、聖書というテキストを用いて考えてみたい。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	1. キリスト教という視点、価値観から自分と他者のあり方を考える。 2. 聖書の中の物語を通じ、神と人間との関係の失敗や成功を読み取り、そこから学び取るべきものを考える。 3. 社会福祉的考え方の基本を聖書から得る。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備 考
第1回	方法論			基礎的知識の確認、前期の復習、講義の指針とやり方の説明						
第2回	創世記を読む（1）			天地創造とその背景にあるもの（創世記1：1～2：4）						ディスカッション
第3回	創世記を読む（2）			楽園喪失と自立（創世記2：4～3：24）						ディスカッション
第4回	創世記を読む（3）			神のえこひいき（創世記4：1～26）						ディスカッション
第5回	創世記を読む（4）			言葉の必要性（創世記11：1～9）						ディスカッション
第6回	創世記を読む（5）			アブラハムの旅（創世記12：1～25：26の中から）						ディスカッション
第7回	福音書を読む（1）			喜びの裏にあるもの（マタイ1：18～2：23 ルカ2：1～20）						ディスカッション
第8回	福音書を読む（2）			失った者を捜すイエス（放蕩息子のたとえ ルカ15：11～32）						ディスカッション
第9回	福音書を読む（3）			社会福祉とイエス（ぶどう園の労働者のたとえ マタイ20：1～16）						ディスカッション
第10回	福音書を読む（4）			才能は用いるために（タラントンのたとえ マタイ25：14～30）						ディスカッション
第11回	福音書を読む（5）			差別とイエス（徴税人ザアカイ ルカ19：1～10）						ディスカッション
第12回	福音書を読む（6）			隣人愛（善いサマリア人 ルカ10：25～37）						ディスカッション
第13回	福音書を読む（7）			いやすイエス（ベトザタの池 ヨハネ5：1～18）						ディスカッション
第14回	福音書を読む（8）			誰が悪いのかでは解決しない（盲人をいやす ヨハネ9：1～12）						ディスカッション
第15回	まとめとふりかえり			キリスト教的社会福祉観の構築を目指すために						
評価 方法 及び 評価 基準	原則としてレポート60%（2回を予定）、講義への出席と参加30%、木曜日の礼拝出席10%とする。 レポートは創世記から1回、福音書から1回、A4サイズ1枚。記述の適切さ、分量、考えや意見が論理的に述べられているかを判断する。									
課題等	講義時に指示。									
事前事後 学修	講義前に聖書テキストを読んでおくことは必須。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』は毎回必ず持参。 プリントは必要に応じて配布する。ノートとプリントをとじるファイルは各自用意しておくこと（前期と同じものが良い）。									
留意点	自分の気づきや疑問を言葉や文章にする努力をすること。 必要に応じて木曜日10：20からの礼拝に参加すること。特に講義欠席の多い者、レポートに自信のない者はそれにより救済される場合がある。									

科目名	歴史学 A		科目コード	W23005	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-03						
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	齊藤 利男			授業 形態	講義	単独	
	教職資格(高一種【歴史】)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、古代エジプトと地中海世界の誕生、ギリシアとローマ、ユーラシア東西交流、イスラム帝国とアジアの大航海時代の順で、古代から中世初めの世界史の学習を行います。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた古代から中世のユーラシアの歴史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
回	主 題			授業内容					備考	
第1回	ガイダンスー書き換えられる世界史			本授業のねらいを、映像を利用しながら説明します。					講義形式	
第2回	古代エジプト文明とナイル川・地中海世界			研究の発展をふまえた新たな視点からエジプト文明の実像を学ぶ					講義形式	
第3回	海洋民族フェニキア人			エジプト文明を支えた海洋民族フェニキア人について学ぶ					講義形式	
第4回	海洋民族ギリシア人とギリシア文明			古代エーゲ海世界とギリシア人の登場について学ぶ					講義形式	
第5回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 1			都市国家アテナイを中心に古代ギリシア社会の発展について学ぶ					講義形式	
第6回	古代ギリシアの発展と都市国家アテナイ 2			古代ギリシアの黄金時代と都市国家アテナイについて学ぶ					講義形式	
第7回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ			映像からローマ帝国について学ぶ、ミニレポートは前半の総括					講義形式	
第8回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 1			ローマ帝国誕生の前史を学ぶ					講義形式	
第9回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 2			都市国家から海洋国家へのローマの発展について学ぶ					講義形式	
第10回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生 3			「地中海帝国」としてのローマ帝国の誕生について学ぶ					講義形式	
第11回	シルクロードとユーラシアの海の道			ユーラシア東西交流の始まりについて学ぶ					講義形式	
第12回	イスラム帝国とアジアの第一次大航海時代			イスラム帝国の登場とアジアの大航海時代の開始について学ぶ					講義形式	
第13回	イスラム帝国とイスラム文化			「イスラムとは何か」を学びイスラムに対する誤解を正す					講義形式	
第14回	「海のシルクロード」の誕生			アジアの大航海時代と「海のシルクロード」について学ぶ					講義形式	
第15回	アジアの第二次大航海時代			アジアの大航海時代の発展とその全盛期について学ぶ					講義形式	
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点=30点,30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点,70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点,100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史学B		科目コード	W23006	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-04						
区分	総合科学系系列科目 教職資格(高一種【歴史】)	選択 必修	担当者名	齊藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 「海を媒介とする交流と文明の世界史」という視点から、アジアの第二次大航海時代、モンゴル帝国、ユーラシア東西交通の発展、大航海時代の順で、中世から近世初めの世界史の学習を行います。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「文明史」の視点からみた中世から近世の世界史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンスー「世界史」の誕生			本授業のねらいを、映像を利用しながら説明します。				講義形式		
第2回	アジアの第二次大航海時代			「アジアの大航海時代」全盛期の状況について学ぶ				講義形式		
第3回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国 1			遊牧騎馬民族国家「モンゴル・ウルス」の誕生について学ぶ				講義形式		
第4回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国 2			クビライの登場とモンゴル元帝国の海洋国家への発展について学ぶ				講義形式		
第5回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国 3			クビライの通商・経済政策について学ぶ				講義形式		
第6回	モンゴル帝国と世界史の新たな時代			モンゴル帝国が世界史の新たな時代を開いたことを学ぶ				講義形式		
第7回	明の建国とユーラシアの再編			モンゴル帝国解体後の世界史を学ぶ、ミニレポートはここまでの総括				講義形式		
第8回	大航海時代への序曲			「大航海時代」はどのようにして始まったのかを学ぶ				講義形式		
第9回	海洋王国ポルトガルと大航海時代の開始			海洋国家ポルトガルの登場とエンリケ航海王子の事業について学ぶ				講義形式		
第10回	コロンブスの大西洋横断航海と新大陸発見			コロンブスの「新大陸発見」の内容と意義を学ぶ				講義形式		
第11回	ヴァスコ・ダ・ガマと大航海時代の本格開始			ヴァスコ・ダ・ガマのインド航路開拓とその意義について学ぶ				講義形式		
第12回	ポルトガル海洋帝国			海洋帝国ポルトガルの黄金時代とその実像について学ぶ				講義形式		
第13回	スペイン植民地帝国			「太陽の沈まぬ帝国」スペインとその植民地支配について学ぶ				講義形式		
第14回	「大航海時代」がもたらしたもの 1			大航海時代のその後と「銀の洪水」・世界経済の変容について学ぶ				講義形式		
第15回	「大航海時代」がもたらしたもの 2			大航海時代がもたらした世界史の変容について学ぶ				講義形式		
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前 事後 学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	哲学A		科目コード	W23003	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-05						
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
	教職科目（中一種【社会】） 教職資格（高一種【公民】）	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>〔キーワード： 哲学の始まり〕</p> <p>無知の知—ソクラテスが打ち立てた哲学。プラトンの継承—イデア論。アリストテレスの形而上学—形相。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>「哲学する」とは「思考する」ことである。単なる知識から「思考」へと変換してゆく過程を学びながら、体験的に考えることをしてゆく。より実践的な学びとなることで主体的な学びの実施を図る。</p>									
到達目標	西洋の思想のルーツを学び、自己の思想の基礎、社会福祉を实践する上での根拠となる思想を確立する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容（授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む）				備 考		
第1回	ソクラテスと哲学の誕生			知を愛すること、アイロニー				PBL		
第2回	プラトン『ソクラテスの弁明』解説			アニュトス、メレトス、リュコン				PBL		
第3回	プラトン『ソクラテスの弁明』解説			アルキビアーデス				グループワーク		
第4回	プラトン『ソクラテスの弁明』解説			三十人政権の乱、教育裁判				PBL		
第5回	プラトン『クリトン』解説			夢知らせの語り				PBL		
第6回	プラトン『クリトン』解説			ダイモンへの確信				PBL		
第7回	プラトン『クリトン』解説			神の導き				PBL		
第8回	プラトン『パイドン』解説			ソクラテス最後の思索				PBL		
第9回	プラトン『パイドン』解説			自殺や逃亡の拒否				PBL		
第10回	プラトン『パイドン』解説			魂の不死への信仰の理性的に吟味				PBL		
第11回	プラトン『パイドン』解説			哲学とは実在へと上昇すること				PBL		
第12回	ソクラテス以前の哲学			自然の根源的意味、生きた自然、ロゴス				PBL		
第13回	プラトンのイデア論			イデア論の真意、制作的存在論、物質的自然観				PBL		
第14回	アリストテレスの形而上学			イデア論批判、批判的形象、形而上学の思考様式				PBL		
第15回	まとめ			思想の現実的有効性に向けて				PBL		
評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつくる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	主にレポートを課題とする（①予習レポート②発表レポート③復習レポート）									
事前事後学修	演習がある時は、参考書を読み、論題を整理しておく。演習後の学びについては、それによって気づいたポイントを明記する。									
教材教科書参考書	『反哲学史』木田元、講談社学術文庫 ISBN:4-06-159424-9 『哲学史講義Ⅱ』ヘーゲル、河出文庫 ISBN:978-4-309-46602-6									
留意点	グループに分かれ、テキストの朗読、解釈、意見を活発にかかわる機会にしたいと思います。									

科目名	哲学B		科目コード	W23004	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-06	時間	30時間				
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(中一種【社会】) 教職資格(高一種【公民】)	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	〔キーワード： 近代哲学の誕生と発展〕 社会福祉を実践してゆく上での根拠となる思想を確立する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 「哲学する」とは「思考する」ことである。単なる知識から「思考」へと変換してゆく過程を学びながら、体験的に考えることをしてゆく。より実践的な学びとなることで主体的な学びの実施を図る。									
到達 目標	近代西欧思想を歴史的に学び、自己の思想の基礎を固め、社会福祉実践の上での思想的根拠とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)				備 考		
第1回	デカルトと近代哲学の創建			アリストテレス・トマス主義、 プラトン・アウグスティヌス主義				PBL		
第2回	デカルト『方法序説』解説			普遍数学的構想、方法への関心				PBL		
第3回	デカルト『方法序説』解説			形而上学への転向、方法的懐疑				PBL		
第4回	デカルト『方法序説』解説			わたしは考える、神の存在証明				グループワーク		
第5回	カントと近代哲学の展開			啓蒙と理性主義、コペルニクスの転回、物自体と現象				PBL		
第6回	カント『道徳形而上学原論』解説			道徳に関する常識的認識				PBL		
第7回	カント『道徳形而上学原論』解説			道徳形而上学への移り行き				PBL		
第8回	カント『道徳形而上学原論』解説			純粋実践理性批判への移り行き				グループワーク		
第9回	ヘーゲルと近代哲学			ドイツ観念論、カント批判、生成する精神、弁証法、絶対精神				PBL		
第10回	後期シェリングと実存哲学			近代哲学批判、実証主義、実存哲学				PBL		
第11回	初期マルクスの自然主義			「経済学・哲学草稿」、ヘーゲル批判、全面的心理の立場				PBL		
第12回	キルケゴールの質的弁証法			実存の思索				PBL		
第13回	ニーチェと「悲劇の誕生」			アポロンの、デオニソスの、ワーグナーの存在				PBL		
第14回	ニーチェと「力への意志」			エリザベートの存在				PBL		
第15回	まとめ			科学至上主義と実証主義から反実証主義へ				PBL		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつくる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	主にレポートを課題とする(①予習レポート②発表レポート③復習レポート)									
事前 事後 学修	演習がある時は、参考書を読み、論題を整理しておく。演習後の学びについては、それによって気づいたポイントを明記する。									
教材 教科書 参考書	『反哲学史』木田元、講談社学術文庫 ISBN:4-06-159424-9 『哲学史講義Ⅳ』ヘーゲル、河出文庫 ISBN:978-4-309-46604-0									
留意点	必ず予習して発表ができるようにしておく。									

科目名	心理学 A		科目コード	W23007	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-07						
区分	総合科学系科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 選択必修	担当者名	古村 健太郎			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>心理学は、人々の心が社会生活の様々な場面でどのように動くのかを実証的研究によって明らかにしてきました。本授業では、日常生活における様々な場面、特に対人関係を取り上げ、我々の心がどのように動くのかについて学んでいきます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	心理学ならびにその近接領域についての学識を得ること 心理学の知識や技能に基づいて、人の心や行動について考えることができるようになること									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			本授業で前提とする知識や考え方について説明する						
第2回	人の自動性			人の自動性について考える						
第3回	ステレオタイプと偏見			ステレオタイプについての基礎知識やその社会的影響について考える						
第4回	ステレオタイプや偏見と向き合う			ステレオタイプや偏見を抑制することができるかを考える						
第5回	ステレオタイプや偏見に対する実践			ステレオタイプや偏見と向き合うための事例について考える						
第6回	私を取り巻く人々との関係性			対人ネットワークの構造や重要他者の存在について考える						
第7回	アタッチメント対象としての重要な他者			アタッチメント理論の観点から重要他者について考える						
第8回	恋愛関係をめぐる話題			恋愛関係に関する心理学研究から身近な人間関係について考える						
第9回	中間のまとめ			ここまでの議論をまとめ、問題点を整理する						
第10回	青年を取り巻く性の話			性行動について考える						
第11回	悲嘆：大切な人を失う			喪失によって生じる悲嘆の過程について考える						
第12回	悲嘆：喪失に向き合う			喪失を経験した人々の事例から喪失体験について考える						
第13回	被災者を支援した被災者			惨事ストレスについて考える						
第14回	日本人は不幸なのか			日本人の幸福度は低いのかについて考える						
第15回	まとめ			これまでの議論をまとめ、問題点を整理する						
評価 方法 及び 評価 基準	毎回の授業後に小レポートを課する。この小レポートによって評価する（100%）。 小レポートは、（1）授業で学んだ内容のまとめ、（2）授業を通して考えたことや日常生活との関連、の2点について書いてもらう。									
課題等	課題については授業で指示する。									
事前事後 学修	授業で扱った内容に関連する書籍や論文を複数講読し、理解を深めることを推奨する。									
教材 教科書 参考書	指定しない。参考書などは授業で適宜紹介する。									
留意点	特になし。									

科目名	心理学B		科目コード	W23008	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGS1-08						
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	小河 妙子				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 人間行動の基礎過程である心の活動を探索する。心理学研究史を概観し、その意義、方法論を探り、看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ、脳と心の関係、感覚・知覚、行動の成り立ちを探る。記憶、認知、言語、学習、発達、情動・動機づけ、人格、対人関係など、人間行動を総合的に考える。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。									
到達 目標	1. 基本概念と語句を理解すること 2. 実験の方法と結果を予測する力をつけること 3. 心の活動について自分の答えを見つけること									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備考
第1回	心理学の歴史と方法			心理学の起源, 心理学の諸分野, 研究法						
第2回	感覚・知覚			知覚情報処理, 知覚の神経基盤, 感覚モダリティ						
第3回	記憶			記憶のモデル, ワーキングメモリ, 忘却, 記憶障害						
第4回	認知			注意の働き, イメージ, 日常認知						
第5回	言語			言語発達, 言語と概念, 読み書き障害						
第6回	学習			馴化, 鋭敏化, 慣化, 古典的条件づけ, オペラント条件づけ						
第7回	発達			インプリンティング, 遺伝と環境, 愛着, 認知発達理論						
第8回	知能と知能検査			知能の定義, 知能検査						
第9回	対人関係			コミュニケーション, 対人関係						
第10回	まとめ			感覚・知覚から対人関係までのまとめを行い, 小テストを実施する						
第11回	情動と動機づけ			感情の仕組みと機能, 動機づけ理論						
第12回	人格と行動			人格の理論, 人格の形成と変容, パーソナリティ障害						
第13回	日常生活と心の健康			ストレス理論, トラウマ, レジリエンス						
第14回	心理アセスメントと支援			心理アセスメント, 心理面接, 心理療法, 公認心理師						
第15回	脳と心			心の生物学的基盤, 脳の構造, 神経心理, 脳機能障害						
評価 方法 及び 評価 基準	第10回目に小テスト(60点)を実施し, 15回終了後にレポート(40点)を課す。レポートの評価方法は授業11回目にルーブリックを提示して説明する。									
課題等	レポートを課す。レポートの内容や体裁は授業中に説明する。									
事前事後 学修	事前・事後学習として, 心理学への興味関心を広げるために, 次のHPから興味のある記事を1件以上, 読んでおくこと。 日本心理学会HP 機関紙「心理学ワールド」 https://psych.or.jp/publication/world/									
教材 教科書 参考書	指定しない。参考図書を授業中に紹介する。									
留意点	授業の資料は, 事前にTeamsにアップロードして共有する。受講生は可能な限り印刷して持参すること。もし印刷できない場合は, 各自で事前にTeamsからダウンロードし, ノートPCを持参して授業中にPDFファイルを開いて授業を受けること。レポートの提出締め切りは厳守(授業中にメッセを周知する)。連絡先 小河 ogawa_09@hirosaki-u.ac.jp									

科目名	情報処理 A		科目コード	W23009	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-09	時間	30時間				
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	齋藤 昭 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教職科目	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 コンピュータの発展の歴史やコンピュータを構成するハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク等の今日のコンピュータリテラシーを学修する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	コンピュータの発展の歴史やコンピュータを構成するハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク等の今日の基本的な知識を学び、この後やってくるであろうますます発展する時代の知識と技術に移行でき、種々対応ができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	情報伝達の歴史、機械技術、電気技術			機械的技術、電気的技術、電子的技術が区別ができる。復習				予習課題復習発問		
第2回	コンピュータ技術の進展-データの符号化(1)			小型軽量化、データの符号化、プログラム内蔵化に関して予習課題				予習課題復習発問		
第3回	コンピュータ技術の進展-データの符号化(2)			数値データの符号化(2進数・10進数・16進数の考え方) 予習課題・復習				予習課題復習発問		
第4回	コンピュータ技術の進展-データの符号化(3)			文字データの符号化、コード(ASCIIコード、JISコード、Unicode) 予習課題・復習				予習課題復習発問		
第5回	コンピュータ技術の進展-その他のデータの符号化			音の符号化、画像の符号化、アナログとデジタルデータの区別 予習課題・復習				予習課題復習発問		
第6回	コンピュータ技術の進展-データの効率的な利用			文字情報の圧縮・音情報の圧縮・画像情報の圧縮、圧縮率 予習課題・復習				予習課題復習発問		
第7回	コンピュータ技術の進展-ソフトウェア(1)			ソフトウェアの構成、データ構造、アルゴリズム、予習課題・復習				予習課題復習発問		
第8回	コンピュータ技術の進展-ソフトウェア(2)			プログラム言語の歴史、歴史にみられる特徴、基本ソフトウェア 予習課題・復習				予習課題復習発問		
第9回	コンピュータ技術の進展-情報システム			POSシステム、住民基本台帳システム、勘定系システム、地理情報システム 予習課題・復習				予習課題復習発問		
第10回	コンピュータ技術の進展-ネットワーク(1)			ルータ、パケット通信、通信プロトコル、データとヘッダ、予習課題・復習				予習課題復習発問		
第11回	コンピュータ技術の進展-ネットワーク(2)			ネットワークのサーバ類、IPアドレス、DNSサーバ、予習課題・復習				予習課題復習発問		
第12回	コンピュータ技術の進展-ヒューマンインターフェース(1)			ヒューマンインターフェースの定義、歴史、コンピュータのOUIとGUI、予習課題・復習				予習課題復習発問		
第13回	コンピュータ技術の進展-ヒューマンインターフェース(2)			道具の3条件、ユーザビリティ、ユニバーサルデザイン、予習課題・復習				予習課題復習発問		
第14回	コンピュータ技術の進展-人工知能(1)			記号主義と結合主義、チューリングテスト、人工知能研究、予習課題・復習				予習課題復習発問		
第15回	コンピュータ技術の進展-人工知能(2)			人工知能応用例 遺伝的アルゴリズム、知的エージェント、協調フィルタリング				予習課題復習発問		
評価 方法 及び 評価 基準	第2回目から第15回目の講義に毎回小レポート提出、その評価(14回×5点=70点)、その評価に加えて、学期末課題レポートの提出(30点)により、総合評価(合計100点、100%)を行う。試験は実施しない。									
課題等	課題は返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前 事後 学修	準備学修時間の目安は、一コマ当たり30分以上。事前の予習課題については、インターネットにより調べてください。									
教材 教科書 参考書	事前事後学習の欄に記載したものと配付するテキストを予習復習の教材とする。									
留意点	双方向の授業形態を採用しているので、授業中、学生からの質問を歓迎するが、講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反などは、許されません。									

科目名	情報処理B		科目コード	W23010	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-10	時間	30時間				
区分	総合科学系科目	選択	担当者名	齋藤 昭 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教職科目	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 データベースの操作の知識と技術を、Excelアプリケーションのスキルアップを目的とした内容および演習課題を配置した。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	Excelアプリケーションによるデータベースの各種機能の実践的な演習を行うことにより、Excelデータベースの各種機能操作のスキルアップができるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	Excelアプリケーションによるデータベース(1) Wordの文章に表やグラフ挿入			Wordによる狂犬病予防の文書並びに検査日程作成、文書に日程表を挿入				Word基本文章作成・表作成確認		
第2回	Excelアプリケーションによるデータベース(2)			複数ワークシートの処理(1)、貼り付け演習課題・レポート課題				演習課題発問-複数ワークシートの利用意義		
第3回	Excelアプリケーションによるデータベース(3)			複数ワークシートの処理(2)、貼り付け演習課題・レポート課題				演習課題発問-リンク貼り付けの利点利用意義		
第4回	Excelアプリケーションによるデータベース(4)			複数ワークシートの処理(3)、貼り付け演習課題・レポート課題				演習課題発問-複数ワークシートの利用意義		
第5回	Excelアプリケーションによるデータベース(5)			並べ替え、複数キーによる並べ替え、フィルター機能による検索、演習課題・レポート課題				演習課題発問・Excelデータベースの利点		
第6回	Excelアプリケーションによるデータベース(6)			フィルター機能による検索(1)、演習課題・レポート課題				演習課題発問・Excelデータベースの利点		
第7回	Excelアプリケーションによるデータベース(7)			フィルター機能による検索(2)、演習課題・レポート課題				演習課題発問・Excelデータベースの利点		
第8回	Excelアプリケーションによるデータベース(8)			複数条件による検索、グループごとの自動集計、演習課題・レポート課題				演習課題発問・検索		
第9回	Excelアプリケーションによるデータベース(9)			三つ以上の抽出条件による検索(1)、演習課題・レポート課題						
第10回	Excelアプリケーションによるデータベース(10)			三つ以上の抽出条件による検索(2)、演習課題・レポート課題				演習課題発問・レポート課題で求めた意義		
第11回	Excelアプリケーションによるデータベース(11)			ピボットテーブルの操作(1)、演習課題・レポート課題				演習課題発問・クロス集計		
第12回	Excelアプリケーションによるデータベース(12)			ピボットテーブルの操作(2)、演習課題・レポート課題				演習課題発問・ピボットテーブルの利用意義		
第13回	Excelアプリケーションによるデータベース(13)			ピボットテーブルの操作(3)、演習課題・レポート課題				演習課題発問		
第14回	Excelアプリケーションによるデータベース(14)			ピボットテーブルの操作(4)、演習課題・レポート課題				演習課題発問		
第15回	Excelアプリケーションによるデータベース(15)			ピボットテーブルの操作(5)、演習課題・レポート課題				演習課題発問		
評価 方法 及び 評価 基準	演習課題毎回に基づく小レポートは15回提出(15回×5点=75点)、演習課題提出(5回×5点=25点)、総合評価(合計100点100%)を行います。試験は行いません。									
課題等	小レポートは、返却するが、不十分の場合は再提出とする。									
事前事後 学修	1コマ当たり1時間以上の事前学習が目安です。									
教材 教科書 参考書	配付するテキストを事前に精読して授業にのぞむこと。あるいはテキスト内容に基づく用語等インターネットで事前に学修しておくことが望ましい。									
留意点	双方向の授業形態を採用しているので、授業中、発問の観点を説明するので注意。また、学生からの質問は大いに歓迎するが、講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反などはしないよう気を付けてください。									

科目名	スポーツ科学概論		科目コード	W23011	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-11		30時間				
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	講義	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] スポーツは遊びです。そしてスポーツは、現代社会に広く浸透し、文化的生活に多大な影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっています。本講義では、スポーツ界の象徴であり縮図とも言えるオリンピックを中心にスポーツを多角的に概観するほか、スポーツに関する各論を含めスポーツ像を再構築します。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの1及び3に関連している。</p>									
到達 目標	スポーツの存在意義を再認識し、スポーツを理解し新たなスポーツ像を描く視点を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス及び導入			単位、評価、科目の位置付け等の説明。						
第2回	スポーツ科学という学問領域とは？			スポーツを学問の対象にするとはどういうことか。スポーツ科学の学問体系を概観する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第3回	身体運動の存在意義とそのスポーツ化			身体運動の存在意義を人類の歴史に即して捉え、身体運動が実用術から非実用術へ移行しスポーツ化する過程を理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第4回	古代オリンピック			古代ギリシャで長年開催されていた古代オリンピックから当時のスポーツ観やスポーツの存在価値を知る。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第5回	近代オリンピックの歴史1			その始まりと理念及び第2次世界大戦以前の普及と存在意義の変容を知る。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第6回	近代オリンピックの歴史2			日本と近代オリンピックの関係を歴史的に見る（JOCホームページ等参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第7回	オリンピックという存在			そもそもオリンピックというスポーツイベントはどのようなものなのかを『オリンピック憲章』に基づいて理解する。（JOCのホームページで『オリンピック憲章』を探してみよう。）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第8回	映像資料に見るオリンピック			オリンピックの精神やエピソード、魅力等をDVD映像から学ぶ。				DVDを資料に使う講義		
第9回	オリンピックビジネス			特にプロ解禁以降、世界を動かすビジネスとして拡大し続けるオリンピックを商業主義の観点から捉えつつ理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第10回	各論1-a（ドーピング1）			ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。（JADAやJOC等のホームページ参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第11回	各論1-b（ドーピング2）			ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。（JADAやJOC等のホームページ参照）				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第12回	各論2（スポーツと国際情勢）			スポーツ界から見る国際情勢を「伝播」「宗教」「女性」といった観点から捉える。				ppt. スライドまたはDVDを使って講義		
第13回	各論3（スポーツと自然）			自然を対象とする身体運動の概念と科学の進歩によるアウトドアスポーツ（登山を例に）の変容を理解する				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第14回	各論4（障害者スポーツ）			障害者スポーツの現状と課題をパラリンピックを題材として理解する。				ppt. スライドとプリントを使って講義		
第15回	総括			これまでの講義全体を振り返り、補足や要点の整理をする。試験の傾向と対策						
評価 方法及び 評価 基準	試験：100%（講義で扱ったスポーツに関する最低限の知識及びスポーツに対する認識と理解度を問う設問集） ※配布したプリント（ppt. スライド）に加えて、講義内容をしっかりノートしていることを前提に問題を出す。									
課題等	オリンピックをはじめとするスポーツ関連の情報（ニュース等）に日頃から注意を向ける。									
事前事後 学修	JOC（日本オリンピック委員会）、JADA（日本アンチ・ドーピング機構）等のホームページの情報を講義内容の理解（特に復習）に活用することが有効である。									
教材 教科書 参考書	ppt. スライド使用、プリント配布、DVD									
留意点	・出席は取りませんが、自身でしっかりノートを取らないと、後でプリントだけ見ても理解できません。									
	・教職免許のために確実に「体育（2単位）」を習得したい人は、実技も2種目（2単位分）履修するという保険を掛けることをお勧めします。									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目コード	W23022	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-12		30時間				
区分	総合科学系科目	選択	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] 健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について学習します。									
	[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] 社会福祉学部ディプロマポリシーの2、およびカリキュラムポリシーの3に関連する。									
到達 目標	人体の臓器（または組織）の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について			授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類						
第2回	健康とは、健康問題の概観			健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因				グループワークを含む		
第3回	栄養と健康（1）			消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント						
第4回	栄養と健康（2）			肥満						
第5回	心身の健康を知る（1）			健康診断（身長、体重、BMI、血圧、心電図、胸部X線）						
第6回	心身の健康を知る（2）			健康診断（血液検査；血球数、ヘモグロビン値、コレステロール、中性脂肪、クレアチニン値）						
第7回	心身の健康を知る（3）			メタボリックシンドローム、心の健康						
第8回	体力および持久力の指標			体力の分類とその加齢変化、および持久力の指標				グループワークを含む		
第9回	身体活動・体力と疾病の関係			身体活動量・体力と疾病との関係、および健康関連体力						
第10回	身体運動のプログラム			効率的に持久力、筋力（筋肥大）、柔軟性を高めるトレーニングの方法						
第11回	身体活動の指針			WHOと日本の身体活動指針						
第12回	身体運動（スポーツ）による外傷・障害と応急処置			急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死						
第13回	アルコール・喫煙・睡眠と健康			アルコールや喫煙による急性・慢性の影響と健康、睡眠の役割						
第14回	アダプテッド・スポーツ			アダプテッド・スポーツとは？、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方						
第15回	生物学的女性の健康と医学			性ホルモンの変化と卵巣および月経周期、月経関連疾患（PMS、月経困難症など）						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者につき、定期試験（筆記試験またはレポート）（100%）によって評価し、60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	なし									
事前 事後 学修	教科書は指定していませんが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習（1.5時間）をしてください。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べてください（1.5時間）。									
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	新聞や雑誌の健康に関係する記事や生活・科学欄を読むようにしてください。また質問や疑問がある場合は6号館（看護学部棟）の宇田研究室に来てください。Teamsを使用します。									

科目名	スポーツ科学実技A(バスケット1)		科目コード	W23012	単位数 時間	1単位 16時間	対象 学年	全学年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS0-13						
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の概要等	5人制バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム(5人)の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実践を学びます。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができません。また週に一度の授業で技術はほとんど上手くはなりません。しかし、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることが重要です。尚、重要な技能要素の一つであるドリブルの習得には、個別に相当量の練習時間を要するため、授業時間内では紹介のみとする。									
到達目標	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
	バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実戦においては、チームの一人一人に必ず役割とやるべきことがあることをふまえ、何をすべきか判断し積極的に動くよう努力する。技術的には、オフェンスにおいては最低限のパスワーク、ステップ、ラン及び連携を体得する。また、マンツーマンディフェンスにおける基本的な構えと位置どりや体の使い方を理解する。									
授業計画										
回	主 題			授業内容				備考		
第1回	ガイダンス			受講者数、経験の有無等の確認 体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達(コロナ対策含む)				場所: 体育館(着替えは不要) ルーブリック配布		
第2回	講義 1			1. 名称、歴史、コートの規格等 2. 最終的に5対5のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。				場所: 教室		
第3回	講義 2			基礎知識の確認と筆記テスト						
第4回	基本の動き 1			ストップ動作を基軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動 フットワーク各種、対人の動き						
第5回	基本の動き 2			フットワーク各種、対人の動き						
第6回	基本の技術 1			ボールハンドリング、ドリブル、ピボット、キャッチ、パス、ミート 等						
第7回	基本の技術 2			対面パス(各種のパス)、移動を伴うパス、パス&ラン(三角パス、四角パス)						
第8回	オフェンス 1			パス&ラン、シュートの基本(セット、ランニング、ドリブル)、2メン						
第9回	オフェンス 2			シュートの基本、2メン、3メン(3線の理解)						
第10回	オフェンス 3			3メン、アウトナンバー(2対1、3対2)、得点の確率を上げるための合理的な展開						
第11回	ディフェンス 1			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 1対1						
第12回	ディフェンス 2			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 2対2、						
第13回	ディフェンス 3			マンツーマンディフェンスの基本(位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等) 3対3、アウトナンバーディフェンス						
第14回	攻防の展開 1			5対5(ゲーム形式)						
第15回	攻防の展開 2及び実技テスト			5対5(ゲーム形式)、実技テスト						
評価方法及び評価基準	授業への参加度: 50% 実技テスト: 30% 筆記テスト: 20% (出席、遅刻、早退の扱いと実技テストについては「ルーブリック」を参照)									
課題等	特に無し									
事前事後学修	筆記テストへの対応として、最初に配布するプリントの内容と授業内で確認するルールをよく理解しておくこと。実技ですから通常は予習、復習は不可能でしょう。									
教材教科書参考書	使用しない									
留意点	男女問わず、部活動その他で専門的な指導を受けたことのない人を対象とする。3学部合同で実施 定員: 24名 受講希望者が24名を超えた場合は、抽選とします。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もあります。									

科目名	スポーツ科学実技B (シーカヤック)		科目コード	W23013	単位数 時間	1単位 16時間	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGS0-14						
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	棟方 達也 尾形 信(実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] シーカヤックとは、海で漕ぐカヤックの事です。シーカヤックツアーをメインとする海浜野外活動(SAP体験あり)を体験学習します。2泊3日のキャンプ形式です。※専門演習I(棟方)選択指定科目(フィールドワーク、グループワーク等のアクティブラーニング要素を含む)</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>・シーカヤックの基本操作の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得 ・野外での衣食住と共同生活への順応</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1	ガイダンスと事前学習(7月)			受講心得、交通手段、費用、装備等について 基本作業の確認				掲示に注意		
2	実習			<p>実習地：北海道泊村盃海岸(予定)</p> <p>日 程：8月3週目以降(予定) (2泊3日)</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上指導 ・海上実践練習 ・ショートツアー ・キャンプサイトの設営と撤収 ・ソロテント生活 ・たき木調達とたき火の管理 ・食料、飲料水の管理と野外炊事 ・各種海浜野外活動(各自) 				<p>・2人乗り艇</p> <p>・個別活動</p>		
評価 方法 及び 評価 基準	ガイダンス及び実習の活動状況：100% ※ガイダンスを無断欠席した場合は、実習に参加できません。									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	[事前] 現地で実施したい個別活動の計画と準備									
教材 教科書 参考書	使用しない									
留意点	定員：3～8名 登録前に必ず、担当教員と面談し、適性の確認を受けてから登録すること。団体行動が苦手な人、虫が嫌いな人、食べ物の好き嫌いが激しい人には向きません。履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後、キャンセルした場合は、この内金は返金されませんので、登録には注意してください。受講費総額(内金含む)の目安¥35,000前後+北海道往復旅費 3学部合同実施 ※泳げなくても大丈夫です。									

科目名	スポーツ科学実技D (バスケット2)		科目コード	W23015	単位数	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	後期変則
			科目ナンバリング	W-TFGS0-16	時間	16時間				
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修		(実務経験：公認指導資格を有する教員)						
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 部活動その他でバスケットボールの専門的な指導を受けた経験がある人を対象とします。(経験年数は問いません)この授業は、バスケットボールを実技のみならず、総合的に理解することを目的とします。そのために、実技(オフェンス及びディフェンスの練習メニューとゲーム)の他、ゲーム運営(審判及びテーブルオフィシャル)、スポーツボランティア体験やハイレベルなゲームの分析も含まれます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達 目標	バスケットボールの総合的な理解と実践									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス			バスケ経歴の確認 体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達(コロナ対策含む)				実技の準備は不要		
第2回	基本の確認			レベルチェックのための各要素(パス、ラン、ドリブル、シュートなど)確認						
第3回	オフェンス1			パス、ラン、シュート、1対1～4対4、スクリーンプレー、ノードリブルオフェンス、アウトナンバーオフェンス その他						
第4回	オフェンス2									
第5回	ディフェンス1			マンツーマンディフェンスの基本、ゾーンディフェンスの基本、フルコートディフェンス、アウトナンバーディフェンス その他						
第6回	ディフェンス2									
第7回	攻防の展開1			5対5(ゲーム形式)						
第8回	攻防の展開2及び実技テスト			5対5(ゲーム形式)、実技テスト						
第9回	審判の基礎			正しいジャッジとレポートのための基本を学ぶ						
第10回	テーブルオフィシャル及びスタッツ			正しいT0の運営とスタッツ入力の理解						
第11回				Bリーグ・青森ワッツのホームゲームボランティアを体験し、レポートする。						
第12回	スポーツボランティア経験									
第13回										
第14回	ゲーム分析			国内、国外のハイレベルな試合(プロリーグ等)を観戦(映像可)しレポートする。						
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度：40%(遅刻、早退、見学等の扱いについては、ガイダンスにて説明) 実技テスト：20% レポート：各20%									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	実技ですから通常は予習、復習はできません。									
教材 教科書 参考書	使用しない									
留意点	男女を問わず。但し、同年度においてバスケットボール1と両方の受講は認めない。3学部合同で実施 定員：18名 受講希望者が定員を超えた場合は、抽選とします。また、受講者が10名に満たない場合は、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もあります。									

科目名	スポーツ科学実技E (スクーバダイビング)		科目コード	W23016	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGSO-17		16時間				
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	棟方 達也 土田 浩人(実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] NAUIオープンウォーターダイバー(以下OWD)認定コースを受講することで、スクーバダイビングを通じての海浜(海洋)野外活動を学びます。(2泊3日合宿型) OWDに認定されると、「Certification Card(通称:Cカード)」という世界共通の認定証が取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格を取得するための第一歩にもなります。実習期間中に認定に至らない場合、その一歩手前のパスポートダイバーに認定することもできます。 ※既にパスポートダイバー認定を受けている人、あるいはOWD認定を受けている人等で上位コース(アドバンスダイバー等)の受講を希望する人にも対応しますので、相談してください。 ※専門演習I(棟方)選択指定科目</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
	到達 目標	NAUI OWD認定								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1.	ガイダンス(7月)			・受講心得・交通手段・費用・装備・事前提出書類・eラーニング等について						
2.	NAUI OWD認定講習プログラム			<p>・学科講習:eラーニング+現地補講</p> <p>・実習:北海道美国町(積丹半島)</p> <p>日 程:夏休み中 2泊3日+前後移動日</p> <p>内 容 [1日目]午前:実技1 午後:実技2</p> <p>[2日目]午前:実技3 午後:実技4</p> <p>[3日目]午前:実技5 午後:実技6</p>				<p>eラーニングは実習前</p> <p>※DIVE-BIDS(美国ダイビングサービス)の正規講習を受講します。</p> <p>グループワーク (パティシステム)</p> <p>フィールドワーク</p>		
評価 方法 及び 評価 基準	OWD認定:100% パスポートダイバー認定またはそれと同等のレベルに達している場合:80% ※それ以外の場合は、受講状況と到達度により判断する。									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	学科講習:実習前のeラーニングによる反転学習 [必須課題] 足の届かない深さで泳げる(パニックにならない)ようになっていること。									
教材 教科書 参考書	事前に所定の教材(受講費に含まれる)を配布									
留意点	持病や体質等により受講できない場合がありますので、登録前に必ず、担当教員と面談し 適性の確認 を受けること。(Teamsのチャットによるアポイント可)履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後にキャンセルした場合、この内金は返金されませんので、登録には注意してください。受講費総額(内金含む)目安¥54,000程度(講習料、施設使用料、食費など)+北海道往復旅費 3学部合同実施 ※未成年者は、保護者の承諾が必要です。【視力について】球面度数-2.0(目安視力値0.2)以下の人は、レンズ付きマスクの購入が別途必要になります。(購入価格¥24,000+税程度)※コンタクトレンズの使用不可									

科目名	スポーツ科学実技J (アウトドアスポーツ: 陸)		科目コード	W23021	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFGS0-18		16時間				
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	棟方 達也				授業 形態	実技	単独
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 多様化するアウトドアスポーツの中から自身の脚力で陸上移動する2種目を日帰りまたは宿泊を伴って実施します。 ※専門演習I(棟方)選択指定科目</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>・サイクリングの基礎と走り方の習得 ・登山の基礎と歩き方の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得 ・運動時における水分およびエネルギー補給の理解と実践</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
1.	ガイダンス			・実施方法 ・注意事項 ・グループ分け 等						
2.	サイクリング ※ママチャリ可 ※ヘルメット着用のこと			①基礎知識 ②計画と準備(コース、装備、飲食、自転車の整備 その他) ③実習 ・日程: 土日または夏休み ・場所: 津軽地方 ④報告書作成					フィールドワーク	
3.	登山			①基礎知識 ②計画と準備(コース、装備、飲食、パッキング その他) ③実習 ・日程: 休日または夏休み ・場所: 八甲田山系 ④報告書作成					フィールドワーク	
評価 方法 及び 評価 基準	ガイダンスを含む授業参加状況: 70% 報告書: 30% (活動内容報告書を所定の形式に従い、指導のもと作成する。)									
課題等	事後報告書(コースタイムとコース状況、装備、飲食等)の提出									
事前 事後 学修	自転車に乗れること。									
教材 教科書 参考書	プリント配布									
留意点	定員: 12名(定員を超える受講希望がある場合、抽選) 交通費、食費等実費は自己負担 社会福祉学部と文学部の合同開講 専門経験を活かした授業です。									

科目名	スポーツ科学実技H (柔道)		科目コード	W23019		単位数	1単位	対象	1年	開講	前期集中
	科目ナンバリング		W-TFGSO-19		時間	16時間	学年		学期		
区分	総合科学系列科目	選択	担当者名	高橋 俊哉				授業形態	実技	単独	
	教職科目	選択必修		(実務経験のある教員)							
授業の概要等	〔授業の主旨〕 柔道の基本を楽しく学習します。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。										
到達目標	受け身を確実にマスターし、安全に試合を楽しむことができる。										
授 業 計 画											
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	柔道とは			柔道の歴史と意義、基本動作							
第2回	足技 1			後ろ受け身、大内刈、小内刈						実習 グループワーク	
第3回	足技 2			横受け身、送足払、出足払						実習 グループワーク	
第4回	足技 3			横転横受け身、膝車、支釣込足						実習 グループワーク	
第5回	足技 4			大外刈、小外刈						実習 グループワーク	
第6回	腰技 1			前回り受け身、大腰						実習 グループワーク	
第7回	腰技 2			前回り受け身、釣込腰、体落、袈裟固						実習 グループワーク	
第8回	手技 1			背負投、払腰、内股、横四方固						実習 グループワーク	
第9回	固技 1			立ち技の練習法、上四方固						実習 グループワーク	
第10回	固技 2			約束稽古、縦四方固、肩固						実習 グループワーク	
第11回	固技 3			乱取り、関節技						実習 グループワーク	
第12回	固技 4			乱取り、絞め技						実習 グループワーク	
第13回	審判法			審判法、寝技の練習法						実習 グループワーク	
第14回	試合			試合						実習 グループワーク	
第15回	形			投の形						実習 グループワーク	
評価方法及び評価基準	授業態度及び参加度50点、実技試験50点により総合的に評価します。										
課題等	なし										
事前事後学修	事前に柔道の試合について映像等で確認してください。										
教材教科書参考書	講道館ホームページ (http://kodokanjudoinstitute.org)										
留意点	貸し出し用柔道着に限りがありますので、用意できる人は持参してください。										

科目名	日本史 A		科目コード	W63011	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-TFGS1-20							
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本史理解の基本として、日本列島における原日本人の登場から、縄文・弥生時代、邪馬台国、ヤマト王権をへて、律令国家＝古代「日本国」が誕生するまでの、古代日本の歴史を学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や二年度以降の専門科目の学習に必要な日本史（原始・古代史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	ガイダンス		本授業のねらいと計画および学習方法について説明します						講義形式	
第2回	日本列島の誕生と縄文文化		日本列島の誕生と新石器時代＝縄文時代の始まりについて学ぶ						講義形式	
第3回	縄文文化の東と西		東北・東日本で栄えた縄文文化と縄文時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第4回	弥生時代とはどのような時代か		鉄器農耕文化、文明の第1段階としての「弥生時代」の性格を学ぶ						講義形式	
第5回	渡来人と弥生時代の開始		「稲作の伝来」と弥生時代の始まりについて学ぶ						講義形式	
第6回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 1		研究の発展で書きかえられた弥生時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第7回	弥生社会の発展と「倭国」の誕生 2		奴国の登場から邪馬台国までの「倭国」の歴史を学ぶ						講義形式	
第8回	「魏志倭人伝」と邪馬台国		邪馬台国と卑弥呼の実像を学ぶ、ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第9回	ヤマト王権と倭王国 1		崇神王朝・応神王朝とヤマト王権の誕生を学ぶ						講義形式	
第10回	ヤマト王権と倭王国 2		古墳文化とヤマト王権による「倭国」の統合過程を学ぶ						講義形式	
第11回	統一国家「日本国」への道		ヤマト政権から律令国家への発展過程を概括する						講義形式	
第12回	「冊封体制」と「日本国」		東アジア世界の国際秩序「冊封体制」について学ぶ						講義形式	
第13回	古代統一国家「日本国」の形成 1		継体王朝の成立からヤマト王権の強大化について学ぶ						講義形式	
第14回	古代統一国家「日本国」の形成 2		乙巳の変（大化の改新）から律令国家成立に至る歴史を学ぶ						講義形式	
第15回	古代統一国家「日本国」のシステム		律令国家（古代統一国家日本）の構造（ハード面）を学ぶ						講義形式	
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	日本史B		科目コード	W63012	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-TFGS1-21	時間	30時間					
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	斉藤 利男			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本史理解の基本として、幕末・維新から、明治国家の成立、日清・日露戦争をへて、「大日本帝国」が成立するまでの近代日本の歴史を学び、さらに、その後の日中戦争から太平洋戦争に至る過程を展望します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な日本近代史(幕末・維新から日清・日露戦争をへて大日本帝国の成立まで)に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ガイダンス		本授業のねらいを、映像を利用しながら説明します。					講義形式		
第2回	開国		ペリー来航と「開国」の実像を学ぶ					講義形式		
第3回	近代国家への課題		開国が鎖国日本に与えた衝撃について学ぶ					講義形式		
第4回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 1		幕末の政治史を学ぶ(その1)					講義形式		
第5回	尊王攘夷と幕末の政治抗争 2		幕末の政治史を学ぶ(その2)					講義形式		
第6回	戊辰戦争と明治維新		幕末の政治史を学ぶ(その3)、ミニレポートはここまでの総括					講義形式		
第7回	明治日本の課題		明治維新後の日本が直面した課題について学ぶ					講義形式		
第8回	軍事大国路線の選択		明治政府が「軍事大国」路線を選択したことを学ぶ					講義形式		
第9回	日清戦争への道		日清戦争は何のための戦争だったのかを学ぶ					講義形式		
第10回	日清戦争圧勝と三国干渉		日清戦争の大勝利がもたらした結果について学ぶ					講義形式		
第11回	日清から日露へ		日清戦争後の日本とアジアについて学ぶ、ミニレポートはこの間の総括					講義形式		
第12回	日英同盟と日露開戦		日本が超大国ロシアと戦うことになったいきさつを学ぶ					講義形式		
第13回	日露戦争、薄氷の勝利		「日露戦争勝利」の内実とポーツマス条約の獲得物について学ぶ					講義形式		
第14回	「大日本帝国」の成立		日露戦争勝利で「大日本帝国」が成立したことを学ぶ					講義形式		
第15回	アジア太平洋戦争への道		「大日本帝国」のその後を学ぶ、ミニレポートは全体の総括					講義形式		
評価 方法 及び 評価 基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい(15回×2点=30点,30%)、学期末に講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います(70点,70%)。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価(合計100点,100%)とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し(質問には回答を行います)、授業内容に反映させます。									
事前事 後学修	授業に先立って教科書代わりのテキストを配布しますので、あらかじめテキストを読んで準備しておいて下さい。授業後は講義の内容とテキストを照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材 教科書 参考書	当方作成の講義テキスト(地図・写真・資料つき)を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史と社会A		科目コード	W63013	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-22	時間	30時間	学年			
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	石田 和男			授業形態	講義	単独	
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の概要等	<p>[授業の主旨] ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録を辿りながら、どの様に平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している</p>									
到達目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で、本人が何を目指したかを学ぶ。民族・宗教・歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	マイレッド・コリガン・マグワイア			ベティ・ウイリアムズと平和団体を設立。 再教育の重要性を強調				グループワーク		
第2回	アムネスティ・インターナショナル			囚人の救済支援、人権擁護、死刑の廃止、難民救済				グループワーク		
第3回	メナヘム・ベギン			イスラエル首相、サダト大統領との和平合意				グループワーク		
第4回	アンワル・サダト			エジプト革命、アラブ連合共和国、イスラエルとの合意				グループワーク		
第5回	マザー・テレサ			終生誓願、カルカッタ聖マリア学院、神の愛の宣教師信徒会				グループワーク		
第6回	アドルフ・ベレス・エスキベル			平和と正義のための奉仕、パーチェム・イン・テリス賞				グループワーク		
第7回	アルバ・ライマル・ミュダール			スウェーデンの福祉国家論				グループワーク		
第8回	アルフォンソ・ガルシア・ロブレス			ジュネーブ軍縮会議、カリブの非核地帯、トラテロコ条約				グループワーク		
第9回	レフ・ワレサ			グダニスク造船所、連帯、ポーランド大統領				グループワーク		
第10回	デズモンド・ムビロ・ツツ			アパルトヘイト、真実平和委員会、ケープタウン大主教				グループワーク		
第11回	核戦争防止国際医師会議			マサチューセッツ州サマービル、 フクシマの被爆許容量修正抗議				グループワーク		
第12回	エリ・ヴィーゼル			強制収容所、小説『夜』、				グループワーク		
第13回	オスカル・アリアス・サンチェス			コスタリカ、国民解放党、大統領				グループワーク		
第14回	国際連合平和維持活動			PKO, ベレー帽、停戦監視団、平和維持軍、選挙監視活動				グループワーク		
第15回	リゴベルタ・メンチュウ			先住民の権利宣言、「万人の健康社」の設立、				グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40%</p> <p>毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。</p>									
課題等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事後学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材教科書参考書	なし									
留意点	事前の学習が大切。特に、毎回テーマごとにレポートを用意すること。それをもとにグループごとにディベートを行う。									

科目名	歴史と社会B		科目コード	W63014	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS1-23		30時間				
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録を辿りながら、どの様に平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している									
到達 目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で、本人が何を目指したかを学ぶ。 民族・宗教・歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ネルソン・マンデラ			アパルトヘイト、アフリカ民族会議、国民統合政府大統領				グループワーク		
第2回	フレデリック・デクラーク			国民党、民主改革路線、マンデラ釈放、アパルトヘイト法廃止				グループワーク		
第3回	ヤセル・アラファート			ファタハ、PLO、パレスチナ自治政府、				グループワーク		
第4回	シモン・ペレス			新党ラフィ、労働党、PLOとの和解				グループワーク		
第5回	イツハク・ラビン			バルマツハ副司令官、参謀総長、パレスチナ暫定自治宣言				グループワーク		
第6回	パグウォッシュ会議			科学と国際問題に関する会議、 ラッセル・アインシュタイン宣言				グループワーク		
第7回	ジョゼフ・ロートブラット			マンハッタン計画、パグウォッシュ会議、				グループワーク		
第8回	カルロス・ペロ			司教叙階、東ティモール人包括対話				グループワーク		
第9回	ジョゼ・ラモス=ホルタ			東ティモール民主協会、自決権行使、独立				グループワーク		
第10回	地雷禁止国際キャンペーン			対人地雷の製造と使用禁止のためのNGO、オタワ条約				グループワーク		
第11回	ジョディ・ウィリアムズ			エルサルバドル内戦、ホンデュラス教育計画、地雷廃絶				グループワーク		
第12回	ジョン・ヒューム			クレジットユニオン運動、ベルファスト合意				グループワーク		
第13回	デヴィッド・トリンブル			北アイルランド、社会民主労働党				グループワーク		
第14回	国境なき医師団			ナイジェリア内戦、ベトナム船、マラリア撲滅				グループワーク		
第15回	金大中			新民党、拉致、民主救国宣言、光州事件、国家情報院廃止				グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事後 学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	なし									
留意点	必ず予習をしておくこと。発表を重視するので何回発表してもよい。またそれをレポート提出すれば、まだよい。									

科目名	人文地理学 A		科目コード	W63015	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期	
区分	総合科学系列科目	選択	科目ナンバリング	W-TFGS2-24	担当者名			高橋 未央	授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	[授業の主旨] 人文地理学の基礎的な概念や、諸地域で展開される人文地理要素を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2および3に関連する。カリキュラムポリシーのすべてに関連する。										
到達 目標	自然環境を土台に展開する人々のくらしや風土を系統的に整理し、任意の場所についてそれぞれの生じている人文地理的事象を説明できることを目標とする。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容					備 考		
第1回	イントロダクション			人文地理学の定義					講義		
第2回	地域差の存在と認識①			身の周りにある地域差					講義		
第3回	地域差の存在と認識②			東日本と西日本における地域差					講義		
第4回	環境決定論①			環境が生み出すもの					講義		
第5回	環境決定論②			センブルによる環境決定論					講義		
第6回	環境決定論③			ハンチントンによる環境決定論					講義		
第7回	方言圏論①			方言の多様性					講義		
第8回	方言圏論②			方言と立地条件					講義		
第9回	方言圏論③			方言圏論					講義		
第10回	農業地理①			農業のはじまりと広がり					講義		
第11回	農業地理②			チューネンの孤立国					講義		
第12回	農業地理③			農業地域の形成					講義		
第13回	産業地理①			日本における工業地帯の変遷					講義		
第14回	産業地理②			ウェーバーの工業立地論					講義		
第15回	産業地理③			産業の発展とグローバル化					講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験、小レポート										
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。										
事前 事後 学習	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。										
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。										
留意点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。										

科目名	人文地理学B		科目コード	W63016	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-TFGS2-25							
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 人文地理学の基礎的な概念や、各分野で展開される人文地理要素を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2および3に関連する。カリキュラムポリシーのすべてに関連する。</p>									
到達 目標	自然環境を土台に展開する人々の暮らし、風土を系統的に整理し、任意の場所についてそれぞれの生じている人文地理的事象を説明できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	地図とは何か			地図の定義				講義		
第2回	地図の起源①			世界における地図の起源				講義		
第3回	地図の起源②			日本における地図の起源				講義		
第4回	地図から読み取る町の変遷①			地形図の読図				講義		
第5回	地図から読み取る町の変遷②			地域の歴史				講義		
第6回	地図から読み取る町の変遷③			地図と歴史から読み取る地域の変遷				講義		
第7回	地図から読み取る町の変遷④			地図と歴史から読み取る地域の変遷				講義		
第8回	村落地理①			村落の定義				講義		
第9回	村落地理②			村落の立地条件				講義		
第10回	村落地理③			集村と散村				講義		
第11回	村落地理④			村落の変遷				講義		
第12回	都市地理①			都市の定義				講義		
第13回	都市地理②			都市の立地条件				講義		
第14回	都市地理③			都市の発展				講義		
第15回	都市地理④			都市における利水の事例				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験、小レポート									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									

科目名	自然地理学A		科目コード	W63017	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-26		30時間				
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	高橋 未央				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。									
到達 目標	自然地理学の中でも特に地形学の基礎的な方法論・理論を理解し、地形を形成する自然現象についての理解を深める									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容						備 考
第1回	イントロダクション			自然地理学の定義						講義
第2回	世界の地形環境			陸地と海底の大地形と地質						講義
第3回	気候因子と気候要素			身近な地域の気候の把握						講義
第4回	ケッペンの気候区分①			計算式による気候区分						講義
第5回	ケッペンの気候区分②			計算式による気候区分						講義
第6回	ケッペンの気候区分③			動気候学的にとらえるケッペンの気候区分						講義
第7回	第四紀に生じた気候変動①			氷期-間氷期サイクル						講義
第8回	第四紀に生じた気候変動②			完新世における縄文海進						講義
第9回	第四紀における地形の形成①			気候変動がもたらした段丘の形成						講義
第10回	第四紀における地形の形成②			地盤隆起がもたらした段丘の形成						講義
第11回	第四紀における地形の形成③			活断層と断層地形						講義
第12回	東北の地帯構造①			山と盆地の配列						講義
第13回	東北の地帯構造②			プレートテクトニクス						講義
第14回	弘前の地形①			地形図の読図						講義
第15回	弘前の地形②			台地を刻む開析谷						講義
評価 方法 及び 評価 基準	試験，小レポート									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前 事後 学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									

科目名	自然地理学B		科目コード	W63018	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFGS2-27						
区分	総合科学系系列科目	選択	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	自然災害の成因を理解し、自然地理を防災に活用できるようにする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	近年の自然災害に学ぶ①			人口密集地帯での自然災害					講義	
第2回	近年の自然災害に学ぶ②			山間部で生じる自然災害					講義	
第3回	近年の自然災害に学ぶ③			ハザードマップと地理院地図					講義	
第4回	沖積平野における自然災害①			沖積平野の地形をよむ(空中写真判読)					講義	
第5回	沖積平野における自然災害②			津波・高波による自然災害のしくみ					講義	
第6回	沖積平野における自然災害③			河川氾濫による自然災害のしくみ					講義	
第7回	沖積平野における防災・減災			各地域における防災と減災のとりくみについて					講義	
第8回	火山のくに日本①			火山の定義					講義	
第9回	火山のくに日本②			火山地形とその形成過程					講義	
第10回	火山災害①			マグマと溶岩流について					講義	
第11回	火山災害②			山体崩壊による大規模災害					講義	
第12回	火山災害③			降下火山灰がもたらす災害					講義	
第13回	火山災害④			ポンペイの噴火から学ぶ噴火様式					講義	
第14回	火山からの恩恵			火山が人間にもたらす恵み					講義	
第15回	火山の周辺地域における防災・減災			火山災害の軽減や防止のためのとりくみについて					講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験, 小レポート									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前 事後 学習	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を毎回持参すること。地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄, 橙, 緑)程度を用意すること。									
留意点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									

科目名	地誌A		科目コード	W63019	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-TFGS1-28	30時間						
区分	総合科学系科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] ① 地誌を学ぶための基礎知識 ②世界の気候と大気循環 ③青森の気候と地形 ④自然環境から育まれる人々の暮らし [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2および3に関連する。カリキュラムポリシーのすべてに関連する。									
到達 目標	青森県の自然環境について、地形や気候条件などの様々な自然条件が複雑に関係して生まれる過程を学び、そこから派生する人々の暮らしをグローバルな視点で考察できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	イントロダクション		地誌とは						講義	
第2回	青森県を地誌学的観点から捉える①		青森県に関する統計資料を使って青森の地誌を知る						講義	
第3回	青森県を地誌学的観点から捉える②		青森県と同緯度の地域を比較し世界の気候帯の中での位置づけを知る						講義	
第4回	世界の気候と日本の気候		大気大循環の中で変化する世界の気候と日本の気候						講義	
第5回	青森の気候①		青森の気候の特色						講義	
第6回	青森の気候②		ヤマセの中での人々の暮らし						講義	
第7回	気候変動の中での青森周辺の環境変化①		10万年周期の気候変動と青森周辺の環境						講義	
第8回	気候変動の中での青森周辺の環境変化②		氷期のころの青森県の様子						講義	
第9回	気候変動の中での青森周辺の環境変化③		縄文海進期の青森県のような						講義	
第10回	青森の平野①		津軽平野のなりたち						講義	
第11回	青森の平野②		津軽平野と人々の暮らし						講義	
第12回	青森の平野③		屏風山の砂丘の形成と農業						講義	
第13回	湖が生み出す環境①		日本の湖と世界の湖のなりたち						講義	
第14回	湖が生み出す環境②		さまざまな湖の特色						講義	
第15回	湖が生み出す環境③		後氷期の環境変動の中で形を変えた十三湖						講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験, 小レポート									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄、橙、緑)程度を用意すること。									
留意点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									

科目名	地誌B		科目コード	W63020	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング	W-TFGS1-29								
区分	総合科学系列科目 教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	選択 必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>① 地誌を学ぶための基礎知識 ②世界の気候と大気循環 ③各地の気候と地形 ④自然環境から育まれる人々の暮らし</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの2および3に関連する。カリキュラムポリシーのすべてに関連する。</p>									
到達 目標	世界の自然が、地形や気候条件などの様々な自然条件が複雑に関係して生まれる過程を学び、そこから派生する人々の暮らしを考察できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	世界の自然環境		世界の地形や気候の特徴						講義	
第2回	世界の人文環境①		自然環境をもとに展開する人々の暮らし						講義	
第3回	世界の人文環境②		自然環境をもとに展開する人々の暮らし						講義	
第4回	アフリカの地誌①		アフリカの自然環境						講義	
第5回	アフリカの地誌②		アフリカの人文環境						講義	
第6回	アフリカの地誌③		サハラ砂漠の変遷						講義	
第7回	アフリカの地誌④		サハラ砂漠の変遷						講義	
第8回	ネパールの地誌①		ネパールの自然環境						講義	
第9回	ネパールの地誌②		ネパールの人文環境						講義	
第10回	ネパールの地誌③		ヒマラヤのディレンマ						講義	
第11回	ネパールの地誌④		ヒマラヤのディレンマ						講義	
第12回	タイの地誌①		タイの自然環境						講義	
第13回	タイの地誌②		タイの人文環境						講義	
第14回	タイの地誌③		タイにおける自然災害と防災						講義	
第15回	まとめ		世界地誌と各地域の地誌のまとめ						講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験, 小レポート									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前 事後 学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄, 橙, 緑)程度を用意すること。									
留意点	必要に応じてオンライン授業アプリを使用する。									